

AXIS F41 Main Unit

ユーザーマニュアル

本書について

本マニュアルはAXIS F41 Main Unitの管理者およびユーザーを対象とし、ファームウェア6.30以降に適用されます。本マニュアルには、製品をネットワーク上で使用し、管理するための手順を記載しています。ネットワークに関する経験があると、本製品を使用する上で役に立ちます。UNIXまたはLinuxベースのシステムに関する一定の知識も、シェルスクリプトおよびアプリケーションを開発する上で役に立つ場合があります。本ガイドの以降のバージョンは、必要に応じてAxisのWebサイトに掲載されます。本製品のオンラインヘルプもご参照ください。Webベースのインターフェースを介してご利用いただけます。

法律上の注意事項

ビデオ、音声監視は法律によって規制されている場合があります、その内容は国によって異なります。本製品を監視用途でご利用になる前に、ご利用いただく地域の法律を確認してください。

本製品にはH.264デコーダのライセンスが1つとAACデコーダのライセンスが1つ含まれています。追加ライセンスの購入については、販売代理店にお問い合わせください。

法的責任

本書は細心の注意をもって準備されています。誤りや欠落を見つけた場合には、お近くのAxisオフィスまでお知らせください。Axis Communications ABは、いかなる技術または印刷上の誤りについても一切責任を負わず、本製品およびマニュアルに予告なく変更を加える権利を留保します。Axis Communications ABは、市場性および特定目的への適合性に関する黙示的保証を含め(ただし、それらに限定されない)、本書の記載内容に関して、いかなる種類の保証もいたしません。Axis Communications ABは、本書の記載内容にしたがった機器の設置、性能、使用に関する間接的損害または結果的損害に責任も義務も負わないものとします。本製品は、その本来の目的でのみ使用してください。

知的財産権

AXIS ABは、本書に記載された製品で具体化された技術の知的財産権を保有しています。これらの知的財産権としては、具体的かつ無制限に、www.axis.com/patent.htmlに表示されている1つまたは複数の特許と米国および他の国々における1つまたは複数の追加特許または係属中の特許出願を含む場合があります。

本製品には、ライセンスされたサードパーティソフトウェアが含まれています。詳細については、本製品のユーザーインターフェースのメニュー項目 [About] (製品情報) を参照してください。

本製品には、Apple Public Source License 2.0の条項 (www.opensource.apple.com/aps/を参照) に基づいて、Apple Computer, Inc.のソースコード著作権が含まれています。ソースコードは、<https://developer.apple.com/bonjour/>からご利用いただけます。

製品の改修

本製品は、ユーザーズマニュアル記載の手順に厳密にしたがってインストールし、使用する必要があります。本製品には、ユーザーが修理できる部品は含まれていません。本製品を権限なく変更または改修すると、適用されるすべての規制上の認証や認可が無効になります。

商標

AXIS COMMUNICATIONS、AXIS、およびVAPIXは、さまざまな管轄区域におけるAxis ABの登録商標または商標出願です。他のすべての会社名および製品は、各会社の商標または登録商標です。

Apple、Apache、Bonjour、Ethernet、Internet Explorer、Linux、Microsoft、Mozilla、Real、SMPT、QuickTime、UNIX、Windows、WWWは、各所有者の登録商標です。JavaとすべてのJavaベースの商標およびロゴは、Oracleおよび関連会社の商標または登録商標です。UPnP文字商標およびUPnPロゴは、米国または他の国々におけるOpen Connectivity Foundation, Inc.の商標です。



SD、SDHC、およびSDXCロゴはSD-3C LLCの商標です。SD、SDHC、SDXCは、米国および/または他の国々におけるSD-3C, LLCの商標または登録商標です。

規制情報

ヨーロッパ

本製品は、適用される各種のCEマーキング指令および整合規格に準拠しています。

- 電波に関する適合性 (EMC) 指令2014/30/EU。2ページの電波に関する適合性 (EMC) を参照してください。
- 低電圧 (LVD) 指令2014/35/EU。3ページの安全性を参照してください。
- 危険物質に関する制限 (RoHS) 指令2011/65/EU。3ページの廃棄およびリサイクルを参照してください。

適合宣言の原本のコピーは、Axis Communications ABから入手できます。3ページのコンタクト情報を参照してください。

電波に関する適合性 (EMC)

本装置は、以下に関する適用規格を満たすように設計、試験されています。

- 指示に従って設置し、想定環境内で使用する場合の無線周波放射
- 指示に従って設置し、想定環境内で使用する場合の電気および電磁現象に対する耐性

米国

本装置は、シールドネットワークケーブル (STP) を使用した試験において、FCC基準パート15に基づき、クラスBデジタルデバイスの制限に準拠していることが認証済みです。これらの制限は、住居設備における有害な干渉からの適切な保護を目的としています。本装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、放射する可能性があり、指示どおりに設置および使用しない場合は、無線通信に有害な干渉をおよぼすおそれがあります。それでも、特定の設置で干渉が発生しないという保証はありません。本装置が原因となってラジオまたはテレビの受信に干渉が発生し、本装置の電源の入/切によって本装置が原因であると確認できた場合は、以下の1つ以上の方法で干渉を是正してください。

- 受信アンテナの向きまたは位置を変更する。
- 本装置と受信機の距離を離す。
- 本装置を受信機が接続されているコンセントとは別のコンセントに接続する。
- 販売代理店または経験あるラジオ/テレビ技術者に相談する。

本製品は、適切に接地したシールドネットワークケーブル (STP) を使用して接続してください。

カナダ

本装置は、CAN ICES-3 (クラスB) に準拠したデジタル装置です。本製品は、適切に接地したシールドネットワークケーブル (STP) を使用して接続してください。Cet appareil numérique est conforme à la norme CAN NMB-3 (classe B). Le produit doit être connecté à l'aide d'un câble réseau blindé (STP) qui est correctement mis à la terre.

欧州

本デジタル装置は、EN 55022のクラスB制限に準拠したRF放射の要件を満たしています。本製品は、適切に接地したシールドネットワークケーブル (STP) を使用して接続してください。

本製品は、EN50121-4およびIEC62236-4鉄道への適用に準拠した放射および耐性の要件を満たしています。

本製品は、EN61000-6-1居住地/商業/軽工業環境に応じた耐性の要件を満たしています。

本製品は、EN 61000-6-2工業環境に準拠した耐性の要件を満たしています。

本製品は、EN 55024事業所および商業環境に準拠した耐性の要件を満たしています。

オーストラリア/ニュージーランド

本デジタル装置は、AS/NZS CISPR 22のクラスB制限に準拠したRF放射の要件を満たしています。本製品は、適切に接地したシールドネットワークケーブル (STP) を使用して接続してください。

日本

この装置は、クラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。本製品は、シールドネットワークケーブル (STP) を使用して接続してください。また適切に接地してください。

韓国

이 기기는 가정용 (B급) 전자파적합기기로서 주로 가정에서 사용하는 것을 목적으로 하며, 모든 지역에서 사용할 수 없습니다. 적절히 접지된 STP (shielded twisted pair) 케이블을 사용하여 제품을 연결하십시오.

安全性

本製品は、IEC/EN/UL 60950-1、情報技術装置の安全性に準拠しています。

ケーブルを屋外に配線している場合は、シールドネットワークケーブル (STP) または他の適切な方法を用いて製品を接地してください。

本製品に使用する電源は、IEC/EN/UL 60950-1に従って、安全特別低電圧 (SELV) および有限電源 (LPS) の要件を満たす必要があります。

バッテリー

本製品は、内部リアルタイムクロック (RTC) 用電源として、3.0V BR2032リチウムバッテリーを使用します。このバッテリーは、通常条件下で最低5年間使用できます。

バッテリーが低電力状態になると、RTCの動作に影響し、電源を入れるたびにRTCがリセットされます。バッテリーの交換が必要になると、製品のサーバルレポートにログメッセージが表示されます。サーバルレポートの詳細については、製品の設定ページを参照するか、Axisサポートまでお問い合わせください。

必要な場合以外はバッテリーを交換しないでください。バッテリーの交換が必要な場合は、Axisサポート (www.axis.com/techsup) までご連絡ください。

リチウムコイン型3.0V電池は、1,2-ジメトキシエタン (エチレングリコールジメチルエーテル (EGDME)、CAS番号110-71-4) を含有しています。

警告

- バッテリーは、正しく交換しないと爆発する危険があります。
- 交換用バッテリーとしては、同一品またはAxisが推奨するバッテリーのみを使用してください。
- 使用済みバッテリーは、地域の規制またはバッテリーメーカーの指示に従って廃棄してください。

廃棄およびリサイクル

本製品がその耐用年数に達した場合は、地域の法律と規制に従って廃棄してください。最寄りの指定収集場所に関する情報については、当該地域の廃棄物担当当局にお問い合わせください。本製品を不正に廃棄すると、地元当局による処罰の対象となることがあります。

欧州



この記号は、本製品を家庭または商業廃棄物と一緒に処分してはならないことを意味します。本製品は、欧州連合 (EU) 加盟国において廃電気電子機器指令 (WEEE指令) 2012/19/EUの対象となります。人の健康や環境に害を与える可能性を避けるため、本製品は、必ず、認可された環境的に安全なリサイクル処理で廃棄してください。最寄りの指定収集場所に関する情報については、当該地域の廃棄物担当当局にお問い合わせください。商用利用者は本製品の適切な廃棄方法について、製品のサプライヤーに問い合わせてください。

本製品は、電気電子機器における特定有害物質の使用規制 (RoHS) に関する指令2011/65/EUの要件に準拠しています。

中国

本製品は、立法機関制定法である電子情報製品汚染制御管理措置 (ACPEIP) の要件に準拠しています。

コンタクト情報

Axis Communications AB
Emdalavägen 14
223 69 Lund
Sweden

電話: +46 46 272 18 00

Fax: +46 46 13 61 30

axis.com

サポート

技術サポートが必要な場合は、Axisの販売代理店までお問い合わせください。ご質問にすぐにお答えできない場合は、お客様をお待たせしないように、お問い合わせ内容が販売店から適切な窓口に送られます。インターネットに接続している場合は、次の作業を自身で行うことができます。

- ユーザードキュメントとソフトウェアアップデートをダウンロード
- FAQデータベースを使用して問題の解決方法を検索。製品、カテゴリ、またはフレーズで検索してください。
- お客様専用のサポートページにログインし、Axisサポートスタッフに問題を報告
- Axisのサポートスタッフとチャット
- Axisサポート (www.axis.com/techsup) にアクセス

保証情報

Axisの製品保証と関連情報については、axis.com/warrantyをご覧ください

詳細情報

Axisラーニングセンター (axis.com/academy) にアクセスしてください。役に立つトレーニング、ウェブセミナー、チュートリアル、ガイドをご用意しています。

AXIS F41 Main Unit

目次

| | |
|-------------------------------|----|
| ハードウェアの概要 | 6 |
| コネクタとボタン | 6 |
| LEDインジケータ | 8 |
| センサーユニットのケーブルを短くする | 8 |
| 製品へのアクセス | 10 |
| ブラウザからのアクセス | 10 |
| インターネットからのアクセス | 10 |
| ルートパスワードの設定 | 11 |
| ライブビューウィンドウについて | 12 |
| メディアストリームについて | 14 |
| H.264ストリーミング | 14 |
| MJPEG形式について | 15 |
| AXIS Media Control (AMC) について | 15 |
| ビデオストリームにアクセスする他の方法 | 15 |
| 音声ストリームへのアクセス | 16 |
| 製品の設定方法 | 17 |
| 基本設定 | 17 |
| ビデオと音声 | 18 |
| ビデオストリームの設定方法 | 18 |
| ストリームプロファイルについて | 21 |
| ONVIFメディアプロファイルについて | 21 |
| カメラ設定について | 22 |
| オーバーレイ表示 | 24 |
| プライバシーマスクについて | 26 |
| 音声設定の変更方法 | 26 |
| オーディオクリップ | 28 |
| ライブビューページの設定 | 29 |
| 検知 | 31 |
| カメラに対するいたずらについて | 31 |
| 音声検知 | 31 |
| アプリケーションについて | 32 |
| アプリケーションのライセンスについて | 32 |
| アプリケーションをアップロードして起動する方法 | 32 |
| アプリケーションの注意事項 | 33 |
| AXIS Video Motion Detection | 34 |
| 注意点 | 34 |
| アプリケーションの開始と停止 | 34 |
| アプリケーションの設定 | 34 |
| アクションルール内でのアプリケーションの使用 | 38 |
| イベント | 39 |
| アクションルールの設定 | 39 |
| 送信先を追加する方法 | 41 |
| スケジュールを作成する方法 | 43 |
| 繰り返しの設定方法 | 43 |
| 録画について | 44 |
| 録画の検索方法 | 44 |
| 録画の再生方法 | 45 |
| ビデオクリップをエクスポートする方法 | 45 |
| 連続録画 | 45 |
| 言語について | 47 |
| システムオプションについて | 48 |
| セキュリティ | 48 |
| 日付と時刻 | 51 |
| ネットワーク | 51 |
| ストレージ | 57 |
| ポートとデバイス | 60 |
| 保守 | 60 |

AXIS F41 Main Unit

目次

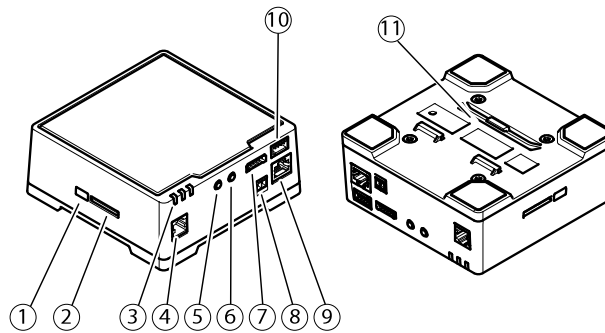
| | |
|-------------------------------|----|
| サポート | 61 |
| 詳細設定 | 62 |
| 工場出荷時の設定にリセットする方法 | 62 |
| トラブルシューティング | 63 |
| ファームウェアを確認する | 63 |
| ファームウェアのアップグレード方法 | 63 |
| 現象、考えられる原因、対策 | 63 |
| 仕様 | 67 |
| AXIS F1004 Sensor Unitの技術仕様 | 68 |
| AXIS F1005-E Sensor Unit | 69 |
| AXIS F1015 Sensor Unit | 70 |
| AXIS F1025 Sensor Unit | 71 |
| AXIS F1035-E Sensor Unit | 71 |
| AXIS F4005 Dome Sensor Unit | 72 |
| AXIS F4005-E Dome Sensor Unit | 73 |
| コネクタ | 74 |
| パフォーマンスに関する一般的な検討事項 | 76 |

AXIS F41 Main Unit

ハードウェアの概要

ハードウェアの概要

ハードウェアコンポーネントの仕様については、67ページの、仕様を参照してください。



1. コントロールボタン
2. SDカードスロット
3. LED (電源、ステータス、ネットワーク)
4. RJ12コネクタ
5. 音声入力
6. 音声出力
7. I/Oコネクタ
8. 電源コネクタ
9. ネットワークコネクタ (PoE)
10. RS232コネクタ
11. プラスチック製ボトムプレート

コネクタとボタン

ネットワークコネクタ

RJ45イーサネットコネクタ、Power over Ethernet (PoE) 対応。

注記

本製品は、シールドネットワークケーブル (STP) を使用して接続してください。本製品は、用途に合ったケーブルを使用してネットワークに接続してください。ネットワーク装置がメーカーの指示どおりに設置されていることを確認します。法的要件については、を参照してください。

I/Oコネクタ

外部装置を接続し、カメラに対するいたずらの警報、動体検知、イベントトリガー、アラーム通知などを使用することができます。I/Oコネクタは、0 V DC基準点と電力 (DC出力) に加えて、以下のインターフェースを提供します。

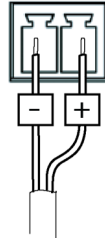
- **デジタル出力** — リレーやLEDなどの外部デバイスを接続します。接続されたデバイスは、VAPIX®アプリケーションプログラミングインターフェース (API)、[Live View] (ライブビュー) ページの出力ボタン、アクションルールを使用してアクティブにすることができます。アラームデバイスがアクティブな場合、出力がアクティブと表示されます (**システムオプション > ポートとデバイス**) で表示)。
- **デジタル入力** — オープンサーキットとクローズサーキットの切り替えが可能なデバイスを接続するためのアラーム入力。たとえば、PIR、ドア/窓の接触、ガラス破壊検知などです。信号を受取ると状態が変化し、入力がactiveになります (**システムオプション > ポートとデバイス**) で表示)。

AXIS F41 Main Unit

ハードウェアの概要

電源コネクタ

DC電源入力用2ピンターミナルブロック。定格出力が100 W以下または5 A以下の安全特別低電圧 (SELV) に準拠した有限電源 (LPS) を使用してください。



音声コネクタ

本製品は、以下の音声コネクタを搭載しています。

- **音声入力** - モノラルマイクロフォンまたはラインインモノラル信号用 (左チャンネルはステレオ信号で使用) 3.5 mm入力。
- **音声出力** - 3.5 mm音声 (ラインレベル) 出力 (パブリックアドレス (PA) システムまたはアンプ内蔵アクティブスピーカーに接続可能)。音声出力には、ステレオコネクタを使用する必要があります。

RS232コネクタ

RS-232シリアルインターフェース用の5ピンターミナルブロックで、補助装置の制御に使用されます。RS232ポートを使用するには、AXIS Camera Application Platform向けのサードパーティ製アプリケーションが必要です。

RJ12コネクタ

RJ12コネクタは、センサーユニットとメインユニットの接続に使用します。センサーユニットのケーブルを短くする方法については、8ページのセンサーユニットのケーブルを短くするを参照してください。

SDカードスロット

注記

- SDカード損傷の危険があります。SDカードの挿入と取り外しの際には、鋭利な工具や金属性の物を使用したり、過剰な力をかけたりしないでください。カードの挿入や取り外しは指で行ってください。
- データ損失や録画データ破損の危険があります。本製品の稼働中はSDカードを取り外さないでください。取り外しの前に、製品のWebページからSDカードをマウント解除してください。

本製品は、SD/SDHC/SDXCカードに対応しています。

推奨するSDカードについては、axis.comを参照してください

 SD、SDHC、およびSDXCロゴはSD-3C LLCの商標です。SD、SDHC、SDXCは、米国および/または他の国々におけるSD-3C, LLCの商標または登録商標です。

コントロールボタン

コントロールボタンの位置については、6ページの、ハードウェアの概要を参照してください。

コントロールボタンは、以下の用途で使用します。

- 製品を工場出荷時の設定にリセットする。62ページを参照してください。

AXIS F41 Main Unit

ハードウェアの概要

- AXIS Video Hosting Systemサービスに接続する。53ページを参照してください。接続するには、ステータスLEDが緑色に点滅するまで、ボタンを押し続けます(約3秒間)。
- AXIS Internet Dynamic DNSサービスに接続する。53ページを参照してください。接続するには、ボタンを押し続けます(約3秒間)。

LEDインジケータ

注意

- ステータスLEDは、正常動作時に消灯させることができます。設定は、[Setup - System Options - Ports & Devices - LED] (設定 - システムオプション - ポートとデバイス - LED) で行います。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステータスLEDは、イベントの発生時に点滅させることができます。
- ステータスLEDを点滅させ、本製品を識別できるように設定することができます。設定は、[Setup - System Options - Maintenance] (設定 - システムオプション - 保守) で行います。

| ステータスLED | 説明 |
|----------|------------------------|
| 緑 | 正常動作であれば緑色に点灯します。 |
| 黄 | 起動時に点灯し、設定の復元時には点滅します。 |
| 赤 | ファームウェアのアップグレード失敗。 |

| ネットワークLED | 説明 |
|-----------|---|
| 緑 | 100 Mbit/sネットワークに接続している場合、点灯します。ネットワークパケットを送受信した場合、点滅します。 |
| 黄 | 10 Mbit/sネットワークに接続している場合、点灯します。ネットワークパケットを送受信した場合、点滅します。 |
| 無点灯 | ネットワーク接続なし。 |

| 電源LED | 説明 |
|-------|---------------------------|
| 緑 | 正常動作。 |
| 黄 | ファームウェアアップグレード中は緑と黄の交互点滅。 |

センサーユニットのケーブルを短くする

注意

- センサーユニットのケーブルは延長したり分割したりすることはできません。
- センサーユニットのケーブルを配線するとき、最小曲げ半径は40 mmです。

センサーユニットには、ケーブルが接続されています。このケーブルを短くする場合は、以下の手順に従ってください。

1. センサーユニットからケーブルの長さを測定し、希望の長さで切断します。
2. ケーブルの端から、プラスチックの外部被覆を剥ぎ取ります。
3. シールドを剥きます。
4. 色分けされたワイヤを以下の順序で平らに並べます。

AXIS F41 Main Unit

ハードウェアの概要

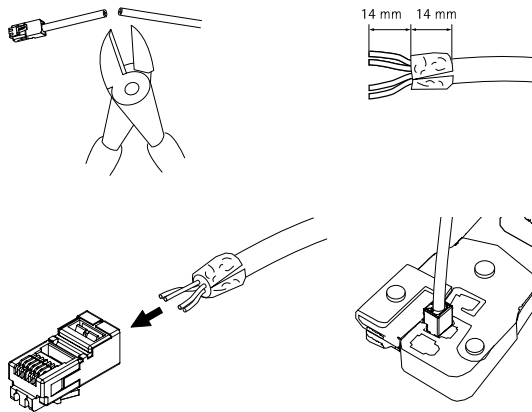
| | |
|---|--------|
| 1 | 茶 |
| 2 | 白/茶 |
| 3 | 使用しません |
| 4 | 使用しません |
| 5 | 白/青 |
| 6 | 青 |

5. ワイヤーをシールド付き6P6C RJ12コネクタに差し込みます。

注記

ワイヤーが正しい順序に並び、ケーブルシールドがコネクタシールドときちんと接触していることを確認します。

6. 圧着工具を使用して、コネクタをケーブルに固定します。



AXIS F41 Main Unit

製品へのアクセス

製品へのアクセス

本製品のインストールについては、製品に添付されている『インストールガイド』を参照してください。

本製品は、ほとんどのオペレーティングシステムとブラウザでご利用いただけます。推奨ブラウザは以下のとおりです。

- Internet Explorer® (Windows® の場合)
- Safari® (OS X® の場合)
- Chrome™ または Firefox® (その他のオペレーティングシステムの場合)

Internet Explorer でストリーミングビデオを見るには、表示される指示にしたがって、AXIS Media Control (AMC) をコンピューターにインストールします。

本製品には、ビデオストリーム表示用 H.264 デコーダライセンスが 1 つと AAC オーディオライセンスが 1 つ含まれています。このライセンスは、AMC で自動的にインストールされます。管理者は、デコーダのインストールを無効にすることによって、ライセンスされていないコピーのインストールを防止することができます。

注意

- QuickTime™ も、H.264 ストリームの表示用と音声用にサポートされています。

ブラウザからのアクセス

1. Web ブラウザーを起動します。
2. ブラウザのロケーション/アドレスフィールドに、本製品の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

Mac コンピューター (OS X) から本製品にアクセスするには、Safari で Bonjour をクリックし、ドロップダウンリストから本製品を選択します。

本製品の IP アドレスが不明な場合には、AXIS IP Utility を使用して、ネットワーク上の本製品を特定します。IP アドレスの検出や割り当てを行う方法については、Axis のサポートホームページ (www.axis.com/techsup) にあるドキュメント『IP アドレスの割り当てとビデオストリームへのアクセス』を参照してください。

注意

Bonjour をブラウザのブックマークとして表示するには、[Safari > Preferences (Safari > 設定)] に移動します。

3. ユーザー名とパスワードを入力します。初めて本製品にアクセスする場合は、最初にルートパスワードを設定する必要があります。手順については、11 ページの *ルートパスワードの設定* を参照してください。
4. ブラウザーで製品のライブビューページが開きます。

注意

ライブビューページのコントロールとレイアウトは、インストール要件およびユーザーの好みに応じてカスタマイズされている場合があります。そのため、ここに示す例と機能の一部がご利用のライブビューページの表示と異なる場合があります。

インターネットからのアクセス

接続した本製品は、ローカルエリアネットワーク (LAN) からアクセスできます。インターネットから本製品にアクセスするには、ネットワークルーターを設定して、本製品への着信データトラフィックを許可する必要があります。この設定を行うには、NAT トラバーサル機能を有効にします。この機能により、ルーターが自動的に設定され、本製品へのアクセスが許可されます。この機能は、[Setup > System Options > Network > TCP/IP Advanced (設定 > システムオプション > ネットワーク > TCP/IP 詳細設定)] で有効にできます。

AXIS F41 Main Unit

製品へのアクセス

詳細については、55ページのIPv4用NATトラバーサル(ポートマッピング)を参照してください。AXIS Internet Dynamic DNS Service (www.axiscam.net)も参照してください。

このトピックや他のトピックに関する技術資料については、Axisサポートページ (www.axis.com/techsup) をご覧ください。

ルートパスワードの設定

本製品にアクセスするには、デフォルトの管理者ユーザー「**root**」のパスワードを設定する必要があります。これは、**Configure Root Password (rootパスワードの設定)** ダイアログで行います。このダイアログは初めて製品にアクセスすると開きます。

ネットワークの傍受を防ぐため、暗号化されたHTTPS接続でルートパスワードを設定できますが、この接続にはHTTPS証明書が必要です。HTTPS (Hypertext Transfer Protocol over SSL) は、Webブラウザとサーバー間のトラフィックの暗号化のために使用されるプロトコルです。HTTPS証明書は、暗号化された情報交換を保証します。詳細については、49ページのHTTPSを参照してください。

デフォルトの管理者ユーザー名は、常に「**root**」であり、削除できません。rootのパスワードを忘れた場合は、本製品を工場出荷時の設定にリセットする必要があります。詳細については、62ページの工場出荷時の設定にリセットする方法を参照してください。

標準のHTTP接続でパスワードを設定する場合は、ダイアログでパスワードを直接入力します。

暗号化されたHTTPS接続でパスワードを設定する場合は、以下の手順に従います。

1. **Use HTTPS (HTTPSの使用)** をクリックします。
一時証明書(有効期間1年)が作成されます。これで製品の入出力トラフィックをすべて暗号化し、安全にパスワードを設定できるようになります。
2. パスワードを入力後、パスワードを再入力してスペルを確認します。
3. **OK** をクリックします。これでパスワードが設定されました。

キャプチャーモードの設定

キャプチャーモードは、本製品で使用できる最大解像度と最大フレームレートを定義します。キャプチャーモードの設定はカメラの画角にも影響します。

ドロップダウンリストから目的のキャプチャーモードを選択し、**[OK]** をクリックします。

デフォルト以外のキャプチャーモードを選択した場合、変更内容を有効にするために製品を再起動する必要があります。

22ページのキャプチャーモードについても参照してください。

電源周波数の設定

電源周波数は本製品への初回アクセス時に設定されます。設定を変更するには、ブレイン設定(62ページ参照)で変更するか、製品を工場出荷時の設定にリセットする必要があります。

本製品を設置する場所で使用されている電源周波数(50 Hzまたは60 Hz)を選択します。誤った周波数を選択すると、蛍光灯環境で製品を使用した場合に画面のちらつきが生じることがあります。

注意

電源周波数は地域ごとに異なります。南北アメリカでは一般的に60 Hzが使用されていますが、その他の世界のほとんどの地域では50 Hzが使用されています。地域によって使用される周波数が異なる可能性があります。必ず地方自治体にお問い合わせください。

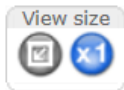
AXIS F41 Main Unit

製品へのアクセス

ライブビューウィンドウについて

ライブビューウィンドウのコントロールとレイアウトは、インストール要件およびユーザーの希望に応じてカスタマイズされている場合があります。そのため、ここに示す例と機能の一部がご利用のライブビューウィンドウの表示と異なる場合があります。以下に、利用可能な各コントロールの概要を示します。

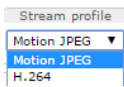
ライブビューウィンドウのコントロールについて



[View size (表示サイズ)] ボタンをクリックすると、映像をフルサイズで表示するか(右ボタン)、映像がブラウザウィンドウ内に収まるようにスケールダウンできます(左ボタン)。



[WDR on (WDRオン)] ボタンをクリックすると、逆光が強い場合にワイドダイナミックレンジ (WDR) が有効になります。光量の低い状態で最適な露出を得るには、**[WDR off (WDRオフ)]** ボタンをクリックしてワイドダイナミックレンジを無効にします。



[Stream Profile (ストリームプロファイル)] ドロップダウンリストから、ライブビューページのストリームプロファイルを選択します。ストリームプロファイルの設定方法については、27ページを参照してください。



ボタンをクリックすると、定義した時間の間、本製品の出力ポートがオンになります。出力ボタンを有効にして、設定する方法については、30ページを参照してください。出力ボタンの名前は、I/Oポート設定で入力した名前に応じて異なる場合があります。



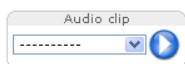
[On/Off (オン/オフ)] ボタンをクリックして、本製品の出力ポートを手動で有効または無効にできます。出力ボタンを有効にして、設定する方法については、30ページを参照してください。



[Manual Trigger (手動トリガー)] ボタンを使用して、ライブビューページからアクションルールをトリガーすることができます。このボタンを設定して、有効にする方法については、12ページの手動トリガーについてを参照してください。



[スナップショット] をクリックして、ビデオ映像のスナップショットを保存します。このボタンは主に、AXIS Media Controlビューアのツールバーが表示されない場合に使用します。このボタンは、**[Live View Config (ライブビューの設定)]** > **[Action Buttons (アクションボタン)]** で有効にします。



[Audio clip (オーディオクリップ)] ドロップダウンリストを使用して、オーディオクリップをライブビューウィンドウから再生できます。オーディオクリップを選択し、**[Play (再生)]** ボタンをクリックします。

手動トリガーについて

ライブビューページからアクションルールをトリガーするには、**[Manual Trigger (手動トリガー)]** を使用します。手動トリガーは、本製品の設置、設定中にアクションを検証する目的などで使用できます。

手動トリガーを設定するには:

1. **[Setup > Events (設定 > イベント)]** に移動します。
2. **[Add (追加)]** をクリックして、新しいアクションルールを追加します。
3. **[Trigger (トリガー)]** ドロップダウンリストから **[Input Signal (入力信号)]** を選択します。
4. 2番目のドロップダウンリストから、**[Manual Trigger (手動トリガー)]** を選択します。
5. アクションを選択し、必要に応じて、その他の設定を行います。

アクションルールの詳細については、39ページの、**イベント** を参照してください。

AXIS F41 Main Unit






製品へのアクセス

ライブビュー ページに手動トリガーボタンを表示するには:

1. [Setup > Live View Config (設定 > ライブビューの設定)] に移動します。
2. [Action Buttons (アクションボタン)] の [Show manual trigger button (手動トリガーボタンを表示する)] を選択します。

AXIS Media Controlビューアのツールバーについて



AXIS Media Controlビューアのツールバーは、Internet Explorerでのみ使用できます。詳細については、15ページの *AXIS Media Control (AMC) について* を参照してください。ツールバーには、以下のボタンが表示されます。

-  [Play (再生)] ボタンは、Axis製品に接続して、メディアストリームの再生を開始します。
-  [Stop (停止)] ボタンは、メディアストリームの再生を停止します。
-  [Snapshot (スナップショット)] ボタンは、ビデオ画像のスナップショットを取ります。
-  [View Full Screen (全画面表示)] ボタンをクリックすると、画面全体にビデオ画像が表示されます。全画面表示をキャンセルするには、コンピューターのキーボードのEsc (Escape) キーを押します。
-  [Record (録画)] ボタンは、現在のビデオストリームをコンピューターに記録するために使用されます。録画を保存する場所は、AMCのコントロールパネルで指定することができます。このボタンは、[Live View Config (ライブビューの設定)] > [Viewer Settings (ビューアの設定)] で有効にすることができます。

AMCの音声コントロール



AMCの音声ボタンは、クライアントコンピューターに接続されたスピーカーとマイクを制御します。これらのボタンは、音声の有効になっている場合のみ表示されます。

音声の設定方法については、26ページの *音声設定の変更方法* を参照してください。

-  **Speaker (スピーカー) ボタン** - クリックすると、音声のオン/オフが切り替わります。
-  **Microphone (マイク) ボタン** - クリックすると、マイクのオン/オフが切り替わります。 *Simplex-speaker only (単方向 - スピーカーのみ)* モードでは、**Microphone (マイク)** ボタンと **Talk (話す)** ボタンの両方をオンしないと、音声を本製品に送信できません。音声の送信を停止するには、どちらかのボタンをクリックします。



スピーカーとマイクの音量調整には、スライダーを使用します。

-   **Talk/Listen (話す/聞く) ボタン** をクリックすると、音声の送信と受信が切り替わります。このボタンは、AMCのコントロールパネルのAudio (音声) タブで、以下のように設定できます。
 - Push-To-Talkモード: 話す場合は、ボタンをクリックして押し続けます。聞く場合は、ボタンを離します。
 - トグルモード: クリックするたびに、話すと聞くが切り替わります。*Simplex-Speaker only (単方向 - スピーカーのみ) モード*
音声を送信するには、**Talk (話す)** ボタンと **Microphone (マイク)** ボタンの両方を有効にする必要があります。音声の送信を停止するには、どちらかのボタンをクリックします。

AXIS F41 Main Unit

メディアストリームについて

メディアストリームについて

本製品の音声およびビデオストリームには、数種類の形式があります。どの形式を使用するかは、お客様の要件とネットワークの特性によって決まります。

本製品のライブビューウィンドウから、H.264とMotion JPEGのビデオストリーム、音声ストリーム、使用可能なストリームプロファイルのリストにアクセスできます。他のアプリケーションとクライアントは、ライブビューウィンドウを経由せずに、直接、ビデオ、音声ストリームにアクセスできます。

H.264ストリーミング

H.264を使用すると、画質を損なうことなく、デジタル映像ファイルのサイズを削減でき、Motion JPEG形式の場合と比較すると80%以上、MPEG-4標準規格と比較すると50%以上削減できます。そのため、映像ファイルに必要なネットワーク帯域幅やストレージ容量が大幅に少なくなります。また、別の見方をすれば、同じビットレートではるかに高い映像品質が得られることになります。

使用するプロトコルと方法の組み合わせは、閲覧要件とネットワークのプロパティにより異なります。AXIS Media Controlで利用できるオプションは、以下のとおりです。

| | | |
|-------------------------|--|--|
| ユニキャストRTP | ライブのユニキャスト映像には、このユニキャスト方式 (RTP over UDP) が使用されます。特に、一部のフレームが欠落していても、ビデオストリームが最新であることが重要な場合に使用されます。 | ユニキャストはビデオオンデマンドの転送に使用されるため、クライアントが接続してストリームを要求するまで、ネットワークにビデオトラフィックは発生しません。ただし、同時ユニキャスト接続は最大20です。 |
| RTP over RTSP | このユニキャスト方式 (RTP tunneled over RTSP) が便利な点は、比較的簡単にファイアウォールを設定してRTSPトラフィックを許可できることです。 | |
| RTP over RTSP over HTTP | このユニキャスト方式を使用すると、ファイアウォールを通過できます。ファイアウォールは、通常、HTTPプロトコルを許可するように設定されているので、RTPのトンネリングも許可されます。 | |
| マルチキャストRTP | この方式 (RTP over UDP) は、ライブのマルチキャスト映像に使用します。ビデオストリームは、一部のフレームが欠落していても、常に最新です。マルチキャストでは、同時に閲覧する多数のクライアントがいる場合に最も効率的に帯域幅を使用します。ただし、ネットワークルーターがマルチキャストを許可するように設定されていない場合は、マルチキャストはルーターを通過できません。たとえば、インターネットでマルチキャストを行うことはできません。また、すべてのマルチキャスト閲覧者は、最大20の同時接続を行うユニキャストでの1人分としてカウントされます。 | |

AXIS Media Controlは、本製品とネゴシエーションを行い、使用するトランスポートプロトコルを決定します。AMCコントロールパネルに表示される優先順位を変更し、オプションを無効にして、特定の要件を満たすことができます。

注意

H.264はライセンスされた技術です。本製品には、H.264閲覧用のクライアントライセンスが1つ添付されています。ライセンスされていないクライアントのコピーをインストールすることは禁止されています。ライセンスを追加購入するには、Axisの販売代理店までお問い合わせください。

AXIS F41 Main Unit

メディアストリームについて

MJPEG形式について

この形式では、標準のJPEG静止画像を使用してビデオストリームを生成します。これらの画像を十分なレートで表示、更新することで、連続的に更新される動きを表示するストリームが作成されます。

Motion JPEGストリームは、かなりの帯域幅を消費しますが、画質に優れ、ストリームに含まれるすべての画像にアクセスできます。本製品からMotion JPEGライブビデオにアクセスするには、WindowsでInternet Explorerを開き、AXIS Media Control (AMC) を使用することをお勧めします。

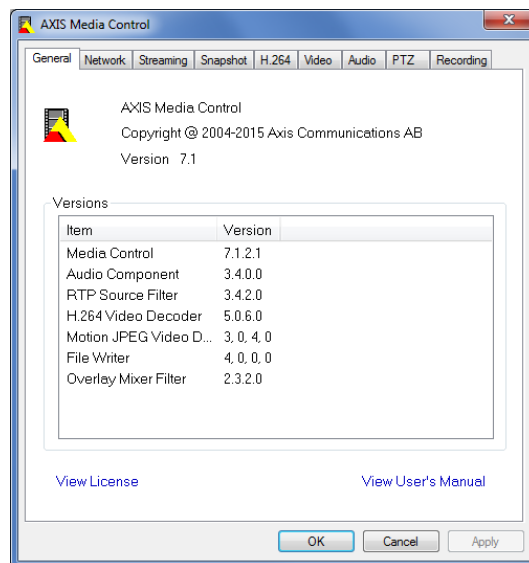
AXIS Media Control (AMC) について

本製品からライブビデオにアクセスするには、WindowsでInternet Explorerを開き、AXIS Media Control (AMC) を使用することをお勧めします。

AMCのコントロールパネルで、各種のビデオ設定と音声設定を行うことができます。詳細については、『AXIS Media Controlユーザーズマニュアル』を参照してください。

AMCのコントロールパネルは、初回使用時に自動インストールされ、その後、設定可能となります。AMCのコントロールパネルは、以下のいずれかの方法で開くことができます。

- Windowsのコントロールパネル ([スタート] 画面または [スタート] メニューから)
- または、Internet Explorerでビデオ画像を右クリックし、[Settings (設定)] をクリックします。



ビデオストリームにアクセスする他の方法

次の方法でも、Axis製品からビデオ/画像にアクセスできます。

- **Motion JPEG サーバープッシュ** (ChromeやFirefoxなどのクライアントでサポートされている場合)。このオプションは、ブラウザへのオープンHTTP接続を維持し、必要ときに、必要な時間だけ、データを送信します。
- **ブラウザでの静止JPEG画像**。パス (`http://<ip>/axis-cgi/jpg/image.cgi`) を入力します。
- **Windows Media Player**。AXIS Media ControlとH.264デコーダーのインストールが必要です。以下のパスを使用できます。
 - RTPによるユニキャスト: `axrtpu://<ip>/axis-media/media.amp`

AXIS F41 Main Unit

メディアストリームについて

- RTSPによるユニキャスト: `axrtsp://<ip>/axis-media/media.amp`
- RTSPによるユニキャスト、HTTPによるトンネリング:
`axrtsphttp://<ip>/axis-media/media.amp`
- マルチキャスト: `axrtpm://<ip>/axis-media/media.amp`
- **QuickTime™**。以下のパスを使用できます。
 - `rtsp://<ip>/axis-media/media.amp`
 - `rtsp://<ip>/axis-media/media.3gp`

注意

- <ip>= IPアドレス
- Axis製品はQuickTime 6.5.1以上をサポートしています。
- QuickTimeでは、ビデオストリームに遅延が生じることがあります。
- 他のプレイヤーで上記のパスを使用してH.264ストリームを表示できる場合がありますが、Axisは何の保証も行いません。

音声ストリームへのアクセス

Live View (ライブビュー) ページでAXIS Media Controlを使用して音声にアクセスできますが、以下の方法でもアクセスすることができます。

- **VAPIX® アプリケーションプログラミングインターフェース (API)** の詳細については、www.axis.com/developerをご覧ください。
- **Windows Media Player** は、単方向音声をサポートします。以下のパスを使用できます。
 - RTPによるユニキャスト: `axrtpu://<ip>/axis-media/media.amp`
 - RTSPによるユニキャスト: `axrtsp://<ip>/axis-media/media.amp`
 - RTSPによるユニキャスト、HTTPによるトンネリング: `axrtsphttp://<ip>/axis-media/media.amp`
 - マルチキャスト: `axrtpm://<ip>/axis-media/media.amp`
- **QuickTime™** は、G.711とAACの音声エンコード方式に対応しています。以下のパスを使用できます。
 - `rtsp://<ip>/axis-media/media.amp`
 - `rtsp://<ip>/axis-media/media.3gp`


AXIS F41 Main Unit

製品の設定方法

製品の設定方法

本製品は、管理者権限またはオペレーター権限を持つユーザーが設定できます。本製品の設定ページを開くには、ライブビューウィンドウの右上隅の **[Setup (設定)]** をクリックします。

- ・ **管理者**には、すべての設定に対する無制限のアクセス権があります。
- ・ **オペレーター**が設定できる項目は制限されています (48ページのユーザーを参照してください)。

オンラインヘルプ () も参照してください。

基本設定

基本設定には、Axis製品の使用前に行う設定へのショートカットが表示されています。

1. ユーザー。48ページを参照してください。
2. TCP/IP。51ページを参照してください。
3. 日付と時刻。51ページを参照してください。
4. ビデオストリーム。18ページを参照してください。
5. 音声の設定。26ページを参照してください。

[基本設定] メニューは、[System Options > Security > Users (システムオプション > セキュリティ > ユーザー)] で無効にできます。

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

ビデオと音声

ビデオと音声の設定を使用して、ビデオと音声の品質を最適化することができます。以下の設定が可能です。

- ビデオストリームの設定 - 詳細については、18ページを参照してください。
- ストリームプロファイル - 詳細については、21ページを参照してください。
- ONVIFメディアプロファイル - 詳細については、21ページを参照してください。
- カメラの設定 - 詳細については、22ページを参照してください。
- オーバーレイ画像 - 詳細については、24ページを参照してください。
- プライバシーマスク - 詳細については、26ページを参照してください。
- 音声の設定 - 詳細については、26ページを参照してください。
- オーディオクリップ - 詳細については、28ページを参照してください。

ビデオストリームの設定方法

本製品のビデオストリームを設定するには、**[Video & Audio (ビデオと音声)] > [Video Stream (ビデオストリーム)]** に移動します。

ビデオストリームの設定は、以下のタブに分かれています。

- Image (画像)。18ページを参照してください。
- Audio (音声)。26ページを参照してください。
- H.264。19ページを参照してください。
- Zipstream。20ページを参照してください。
- MJPEG。21ページを参照してください。

ピクセルカウンターについて

ピクセルカウンターには画像領域のピクセル数が表示されます。ピクセルカウンターは、たとえば、顔認証など、画像が一定サイズであることが必要な場合に役に立ちます。

ピクセルカウンターは、以下のときに使用できます。

- ビデオストリームの設定時 (18ページのビデオストリームの設定方法を参照してください)。[Preview (プレビュー)] の [Open (開く)] をクリックして、[Show pixel counter (ピクセルカウンターを表示する)] オプションを選択すると、画像に矩形が表示されます。マウスで矩形を動かしてサイズを変更するか、[Width (幅)] フィールドと [Height (高さ)] フィールドにピクセル数を入力して、[Apply (適用)] をクリックします。

画像

デフォルトの画像設定は、**[Video & Audio (ビデオと音声)] > [Video Stream (ビデオストリーム)]** で設定できます。[Image (画像)] タブを選択します。

以下の設定を行うことができます。

- Resolution (解像度)。デフォルトの解像度を選択します。
- Compression (圧縮)。圧縮率は画質、帯域幅、および保存した画像のファイルサイズに影響します。圧縮率が小さいほど画質は向上しますが、必要な帯域幅とファイルサイズは大きくなります。

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

- **Mirror image (画像を反転)**。必要な場合は、画像を反転できます。
- **Rotate image (画像を回転)**。必要な場合は、画像を回転できます。
- **Maximum frame rate (最大フレームレート)**。帯域幅の問題を防止するために、各閲覧者のフレームレートを一定の値に制限することができます。逆に、フレームレートを **[Unlimited (制限しない)]** に設定することもでき、その場合、その時点の状況で可能な限り高いフレームレートで画像が送信されます。
- **Overlay settings (オーバーレイの設定)**。24ページのオーバーレイテキストについてを参照してください。

[Save (保存)] をクリックして、新しい設定を適用します。

H.264について

H.264は、MPEG-4 Part 10/AVCとも呼ばれるビデオ圧縮の標準規格で、低いビットレートで高品質なビデオストリームを実現します。H.264ビデオストリームは、IフレームやPフレームなど、さまざまなタイプのフレームから構成されます。Iフレームは完全な画像ですが、Pフレームには前のフレームとの差分のみが含まれています。

GOP長について

Group of Pictures (GOP) には、1つのIフレームとそれに続くいくつかのPフレームが含まれます。GOP長とは、2つのIフレームの間のフレーム数です。

GOP長とフレームレートが等しい値の場合、1 GOP/秒ということになります。同じフレームレートのままでGOP長の値を高い値に設定すると、サイズが小さいPフレームの数が増え、サイズが大きいIフレームの数が減ります。つまり、GOP長の値を高い値に設定すると、帯域幅は節約できますが、映像品質が下がる可能性があります。GOP長を低い値に設定すると、映像品質は向上しますが、必要な帯域幅が多くなります。

H.264プロファイルについて

本製品では、以下のH.264プロファイルをサポートしています。

- **ベースライン**: クライアントがCABACエントロピーコーディングをサポートしていない場合は、ベースラインプロファイルを使用します。
- **メイン**: メインプロファイルではCABACが使用され、映像品質を保ちながら圧縮率が高くなります。デコーディングには、ベースラインプロファイルより多くの処理能力を必要とします。
- **ハイ**: ハイプロファイルはメインプロファイルとベースラインプロファイルのどちらよりも圧縮率が高くなりますが、デコードにより多くの処理能力が必要となります。ハイプロファイルは、メインプロファイルよりさらにビットレートを低減する8x8ブロックをサポートしています。

ビットレート制御について

ビットレート制御は、ビデオストリームが過大な帯域幅を占有しないようにするのに役立ちます。

内蔵のビットレート制御はZipstreamと組み合わせることができます。Zipstreamについては、20ページの *Zipstream* についてを参照してください。Zipstreamの可能性を最大限に発揮するために、ビットレートの制限を高めに設定することをお勧めします。

可変ビットレートについて

可変ビットレート (VBR) は、画像の複雑さをもとにビットレートを調整します。撮影シーン内の動きが多くなると、VBRが映像の複雑さに応じてビットレートを調整するため、撮影シーン内の動きが多くなると帯域幅の使用量が増え、撮影シーン内の動きが少くなると帯域幅の使用量が減ります。帯域幅に余裕があり、ビットレートの増加が問題でない場合は、可変ビットレートが適しています。

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

最大ビットレートについて

帯域幅が限られている場合、最大ビットレート (MBR) を使用することをお勧めします。最大ビットレートを使用すれば、ビットレートの目標値を設定して、帯域幅の使用量を制御できます。この目標値によってビットレートが制限されますが、連続したビデオストリームを優先する柔軟性は維持されます。そのため、フレームレートを下げる必要が生じ、画質が低下する場合があります。この状況をいくらか緩和するために、優先する変数を選択できます。優先度を設定しない場合、フレームレートと画質が同じ程度の影響を受けることになります。

H.264プロファイルの設定方法

1. ストリームプロファイルを使用しないH.264ストリームの設定を変更するには、**[Video & Audio] > [Video Stream] > [H.264] (ビデオと音声 > ビデオストリーム > H.264)** に移動します。
2. GOP当たりのフレーム数を増減するには、**[GOP length (GOP長)]** を設定します。
3. H.264プロファイルの1つを選択します。
4. 次のいずれかを選択します。
 - **[Variable bit rate (可変ビットレート)]**
 - **[Maximum bit rate (最大ビットレート)]**
5. **[最大ビットレート]** を選択した場合、**[優先度]** ドロップダウンリストから優先する変数を選択します。
6. **[保存]** をクリックします。

テキストオーバーレイに現在のビットレートを表示する方法

1. **[Video & Audio] > [Video Stream] > [Overlay Settings] (ビデオと音声 > ビデオストリーム > オーバーレイ設定)** に移動します。
2. **[Include text] (テキストを含める)** フィールドに「#b」と入力します。
3. **[保存]** をクリックします。

Zipstreamについて

Axis独自のZipstreamは、ビデオ監視に最適化されたビットレート低減テクノロジーです。Zipstreamは、不要なデータを除去することによりH.264ストリームの平均ビットレートを低減し、高解像度のストリーム、ストレージコストの低減、長時間の録画保存を実現します。

Zipstreamは、平均ビットレートを低減するために、たとえば、背景など、映像監視の観点からは重要性が乏しい画像部分のビットレートを低減します。顔やナンバープレートなど、フォレンジック映像分析に重要な詳細画像は、より高いビットレートで保存されます。

Axis独自のH.264対応ZipstreamはH.264標準に適合し、H.264映像をデコードするサードパーティーのクライアントやVMSソリューションと互換性があります。

ビットレート低減の使用を推奨

Zipstreamは、**[低]** から **[最高]** まで、ビットレート低減プリセットをいくつか備えています。**[低]** のビットレート低減がデフォルトで有効になっていて、ビットレート低減中のすべてのアプリケーションで安全に使用できます。

クラウド接続型カメラやエッジストレージを使用するカメラの場合は、**[Extreme (極限)]** のビットレート低減を使用して、ストレージ時間を最大にすることをお勧めします。この設定は、ビットレートがシーンの複雑さに適応できるようにする可変ビットレート (VBR) や動体検知トリガーとの組み合わせに適しています。

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

Zipstreamを使用して帯域幅とストレージの容量を節減する方法

本製品に内蔵されたビットレートコントローラーはZipstreamと組み合わせて、最大ビットレート (MBR) を制限できます。Zipstreamの可能性を最大限に発揮するために、ビットレートの制限を高めを設定して、VBRまたはMBRを使用することをお勧めします。

たとえば、時々撮影シーンに動きが多くなることもあり、顔の特徴などの詳細を撮影することが重要となる鉄道監視の場合、MBRは10Mbit/秒 (30フレーム/秒、解像度1080pの場合) に設定する必要があります。

さらに帯域幅を節約するには、[Setup] (設定) > [Video & Audio] (ビデオと音声) > [Video Stream] (ビデオストリーム) に移動し、次の操作を1つ以上行います。

- [Image] (画像) タブに移動し、[Maximum frame rate] (最大フレームレート) を低い値に設定します。
- [H.264] タブに移動し、[GOP長] 値を高い値に設定します。
- [Zipstream] タブに移動し、[Extreme] H.264ビットレート低減を選択します。
- [Zipstream] タブに移動します。[Dynamic GOP] を有効にして、[ダイナミックGOP最大長] 値を高く設定します。
- [Zipstream] タブに移動して、[ダイナミックFPS] を有効にします。

ビデオストリームの設定を変更後、ビデオストリームが監視目的の品質要件を満たしているか必ず確認してください。

MJPEGの設定について

光量不足や複雑なシーンの場合、画像サイズが巨大になる場合があります。最大フレームサイズを調節すると、このような状況でMotion JPEGビデオストリームによって使用される帯域幅とストレージ容量をうまく抑えることができます。フレームサイズを [Default (デフォルト)] に設定すると良い画質が保たれますが、光量が少ない間は帯域幅とストレージ容量の消費量が增大します。フレームサイズを制限すると、帯域幅とストレージ容量は最適になりますが、画質が悪化する場合があります。

ストリームプロファイルについて

ストリームプロファイルは、解像度、圧縮率、フレームレート、オーバーレイ設定など、事前設定された一連のストリーム設定です。ストリームプロファイルは、以下のような場合に使用できます。

- アクションルールを使用して録画を設定する場合。39ページの、イベントを参照してください。
- 連続録画を設定する場合。45ページの連続録画を参照してください。
- ライブビューページで、[ストリームプロファイル] ドロップダウンリストからストリームプロファイルを選択します。

新しいプロファイルを作成したり、既存のプロファイルを修正するには、[Setup (設定)] > [Video & Audio (映像と音声)] > [Stream Profiles (ストリームプロファイル)] に移動します。

ライブビューページのデフォルトのストリームプロファイルを選択するには、[Setup > Live View Config (設定 > ライブビューの設定)] に移動します。

ONVIFメディアプロファイルについて

ONVIFメディアプロファイルは、メディアストリーム設定の変更に使用する一連の設定から構成されています。ONVIFメディアプロファイルは、クライアントがメディアストリームのプロパティを設定するために使用します。

[ONVIFメディアプロファイル] ページには、設定済みのすべてプロファイルが一覧表示されています。本製品にはこれらのプロファイルが付属し、迅速に設定を行うことができます。このページで、ONVIFメディアプロファイルを追加、変更、削除できます。

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

カメラ設定について

[Video & Audio > Camera Settings (映像と音声 > カメラの設定)] ページでは、本製品の高度な画像設定を行うことができます。

キャプチャーモードについて

キャプチャーモードは、本製品で使用できる最大解像度と最大フレームレートを定義します。最大解像度が高いキャプチャーモードでは最大フレームレートが低く、逆に最大解像度が低い場合は最大フレームレートが高くなります。キャプチャーモードによってイメージセンサーの有効な大きさが変化するため、キャプチャーモードの設定はカメラの画角にも影響します。

製品に初めてアクセスしたときに、キャプチャーモードを設定します。目的のキャプチャーモードを選択し、[OK] をクリックします。

重要

本製品の設定が済んだあとでキャプチャーモードを変更すると、他の設定のほとんどが削除またはリセットされるため、変更は推奨しません。

キャプチャーモードを変更するには、以下の手順に従います。

1. [Setup (設定)] > [Video & Audio (映像と音声)] > [Camera Settings (カメラの設定)] に移動します。
2. 新しいキャプチャーモードを選択します。

注意

キャプチャーモードを変更すると、変更内容を有効にするためにカメラを再起動する必要があります。

画像の外観について

画像の外観を変更するには、[Setup (設定)] > [Video & Audio (映像と音声)] > [Camera Settings (カメラ設定)] に移動します。

[Color level (カラーレベル)] を大きくすると、色の彩度が上がります。値を100にすると色の彩度が最大になり、値を0にすると白黒画像になります。

画像の [Brightness (輝度)] を0～100の範囲で調節できます。値が高いほど、明るい画像になります。

[Sharpness (シャープネス)] の値を大きくすると、帯域幅の使用量が増えます。光量の少ない環境では、シャープな画像ほど画像ノイズが増大する可能性があります。設定値を小さくすると画像ノイズが減りますが、画像のシャープさが失われます。

[Contrast (コントラスト)] を変更すると、画像の暗い部分と明るい部分の対比が変化します。この値は、スライダーを使用して調節することができます。

[Local Contrast (ローカルコントラスト)] は、画像の特定エリアにコントラストを適用します。コントラストの調整にはスライダーを使用します。値を大きくすると画像の暗い部分と明るい部分のコントラストが高くなり、ワイドダイナミックレンジのあるシーンに適しています。

ホワイトバランスについて

この設定を変更するには、[Setup (設定)] > [Video & Audio (映像と音声)] > [Camera Settings (カメラ設定)] に移動します。

ホワイトバランスは、光源の色温度が異なると変化してしまう色を同じ色に見えるようにするために使用します。本製品では、自動的に光源を識別して色を補正するように設定できます。また、ドロップダウンリストから、光源の種類を選択することもできます。使用可能な各設定については、オンラインヘルプ(?) を参照してください。

[White balance (ホワイトバランス)] ドロップダウンリストに表示される [Automatic (自動)] および [Automatic outdoor (自動-屋外)] オプションに関して、[white balance window (ホワイトバランスウィンドウ)] が使用できます。ドロップダウンリストから以下のいずれかのオプションを選択して、ホワイトバランスウィンドウの

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

プロパティを設定します。[Automatic (自動)]を選択すると、([White balance (ホワイトバランス)] ドロップダウンリストで) [Automatic (自動)] または [Automatic outdoor (自動一屋外)] を選択した場合にデフォルトの設定が使用されます。ビューエリアのホワイトバランスの参照ウィンドウを手動で設定するには、[Custom (カスタム)] を選択します。

ワイドダイナミックレンジ

ワイドダイナミックレンジ (WDR - Forensic Capture (WDR - フォレンジックキャプチャー)) を使用して、画像内で明暗のコントラストがかなり強い場合に、それぞれの場所の画像のバランスを取ることができます。このような撮影場所から低照度条件への移行を、カメラが自動的に処理します。低照度条件では、WDRを無効にすると画像が改善される場合があります。

重要

WDRは、自動露出制御と組み合わせて使用してください。それ以外の露出設定では、望ましくない結果になる可能性があります。

露出の設定

露出とは、シーンでカメラのセンサーが取り込む光の量です。光量が多すぎると白とびした映像になり、光量が少なすぎると暗い映像になります。

露出値 - [露出値] スライダーを使用して、映像の全体的な輝度を調整します。

露出コントロール - 適切なオプションを選択して、露出をコントロールします。ほとんどのシーンでは、[自動] オプションを選択すれば、最善の結果が得られます。シャッター速度が自動的に設定されて、最適な画質が得られます。蛍光灯やその他の光源によって、映像のちらつきが生じる場合があります。映像のちらつきを抑えるには、電源周波数に対応する[ちらつき] オプションを選択します。[現在の状態で固定] オプションを選択すると、現在の露出設定で固定されます。

最大露出時間 - シャッター速度は「露出時間」とも呼ばれ、カメラのシャッターが開き、それによってカメラのセンサーが露光する時間の長さを表しています。シャッター速度が速いと、動きを効果的に捉えることができます。シャッター速度が遅いと、動体がぶれて見える原因になります。露出時間を短くすると、動きによる画像のブレが少なくなります。

露出ゾーン - 映像のどの部分を露出計算に使用するかを設定できます。[Auto (自動)] 設定でほとんどの状況に対応できます。

映像内の対象範囲と除外範囲を定義することにより、事前定義済みのエリアを選択できます。除外範囲は明るすぎたり、暗すぎたりするエリアを除外し、対象範囲は露出データを得るのに役立つ照明条件がよいシーンのエリアを対象に含めます。

最低でも1つの対象範囲を含める必要があります。露出ゾーンを調整するには、合計で10個の対象範囲と除外範囲を設定できます。

除外範囲は、対象範囲の内側に置いた場合にのみ有効です。

ヒント: エリアが明るすぎる場合、エリア全体を対象範囲に入れたうえで、その中に除外範囲を定義して、明るいエリアを排除します。

普通の光量と低光量の設定方法

[Shutter (シャッター)] と [Gain (ゲイン)] の両方を [Auto (自動)] に設定している場合は、[low motion blur (動きのぼやけが少ない)] と [low noise (低ノイズ)] の間で [Priority (優先度)] を手動で設定できます。また、[Priority (優先度)] は [Normal Light (普通の光量)] と [Low Light (低光量)] とで個別に設定することができます。

例

日中は人や車の移動があり、夜間になると交通が途絶えるエリアについて考慮します。たとえば、普通の光量下では顔やナンバープレートを識別しやすいように、スライダーを [low motion blur (動きのぼやけが少ない)] 側に移動します。夜間は、識別より動体の検知が重要になります。低光量下ではノイズが多くなるため、動きによる画像のブレは許容し、スライダーを [low noise (低ノイズ)] 側に移動します。

普通の光量の優先度

1. スライダーを使用して [Low motion blur (動きによる画像のブレが少ない)] と [Low noise (低ノイズ)] の間で [Priority (優先度)] を設定します。[low noise (低ノイズ)] を優先 (スライダーを左側いっぱいまで移動) す

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

ると、明るさが減少したときに本製品が自動的にシャッター速度を遅くようになります。シャッター速度が1/30秒に達すると、カメラ製品は通常の光量の設定最大ゲインに達するまでゲインを上げます。

低光量の優先度

2. スライダーを使用して **[Low motion blur (動きによる画像のブレが少ない)]** と **[Low noise (低ノイズ)]** の間で **[Priority (優先度)]** を設定します。 **[low motion blur (動きのぼやけが少ない)]** を優先 (スライダーを右側いっぱいまで移動) すると、明るさが減少したときにカメラが自動的にゲインを上げるようになります。ゲインが低光量時の設定最大ゲインに達すると、カメラは低光量時の設定最大シャッター速度に達するまでシャッター速度を遅くします。これは低光量時のデフォルトの優先度設定です。
3. ドロップダウンリストから **[Max gain (最大ゲイン)]** 値を選択します。普通の光量下でのゲインの上限を設定します。
4. **[Max fast shutter (最高速シャッター)]** は、普通の光量下でのシャッター速度の制限を設定します。状況によりませんが、シャッター速度の制限を定義する必要がある場合があります。この指定は、**[System Options (システムオプション)]** > **[Advanced (高度な設定)]** > **[Plain Config (プレーン設定)]** で行います。

オーバーレイ表示

オーバーレイは、ビデオストリームに重ねて表示されます。オーバーレイは、タイムスタンプなど、録画時の追加情報、または、インストール、設定時の補足情報を表示するために使用します。

オーバーレイテキストについて


オーバーレイテキストには、現在の日付と時刻や文字列を含めることができます。文字列を使用する場合、いわゆる修飾子を使用して、現在のビットレートやフレームレートなどの情報を表示できます。

テキストオーバーレイのサイズは、以下の表から選択できます。

| サイズ | テキストの高さ | 背景の高さ |
|-----|---------|--------|
| 小 | 10ピクセル | 20ピクセル |
| 中 | 16ピクセル | 28ピクセル |
| 大 | 21ピクセル | 36ピクセル |

アクションルールがトリガーされたときにテキストを表示することもできます。25ページのアクションルールにオーバーレイテキストを含める方法を参照してください。

オーバーレイテキストを含める方法

1. **[Video & Audio (ビデオと音声)]** > **[Video Stream (ビデオストリーム)]** に移動し、**[Image (画像)]** タブを選択します。
2. 日付と時刻を含めるには、**[Include date (日付を表示する)]** と **[Include time (時刻を表示する)]** を選択します。
3. 文字列を表示するには、**[Include text (テキストを表示する)]** を選択し、フィールドにテキストを入力します。使用できる修飾子については、オンラインヘルプ  の「ファイル名と日付/時刻の書式指定」を参照してください。
4. テキスト文字列のサイズ、色、および配置を選択します。
5. **[Save] (保存)** をクリックします。

日付と時刻の形式を変更するには、**[System Options > Date & Time (システムオプション > 日付と時刻)]** に移動します。51ページの日付と時刻を参照してください。

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

アクションルールにオーバーレイテキストを含める方法

1. [Video & Audio (ビデオと音声)] > [Video Stream (ビデオストリーム)] に移動し、[Image (画像)] タブを選択します。
2. [Overlay Settings (オーバーレイの設定)] の [Include text (テキストを表示する)] を選択します。
3. 修飾子「#D」を入力します。ルールがトリガーされると、「#D」はアクションルールで指定されたテキストに置き換えられます。
このフィールドの追加テキストは、アクションルールがアクティブでないときにも表示されます。
4. [Events (イベント)] > [Action Rules (アクションルール)] に移動し、アクションルールを作成します。
5. [Actions (アクション)] リストから [Overlay Text (オーバーレイテキスト)] を選択します。
6. [Text (テキスト)] フィールドに、表示するテキストを入力します。
7. [Duration (継続時間)] を指定します。テキストはルールがアクティブな期間、または一定の秒数だけ表示されます。

オーバーレイ画像について

オーバーレイ画像は、ビデオストリームに重ねて表示される静止画像です。企業のロゴなどの画像は、まず本製品にアップロードしてから、追加情報を表示したり、映像の一部を隠したりするために使用します。

画像仕様

- アップロードする画像は、Windowsの24ビットBMP形式で最大250色の画像を使用する必要があります。
- 画像の幅と高さのピクセル数は4で割り切れる必要があります。
- テキストオーバーレイと画像オーバーレイを組み合わせる場合、テキストオーバーレイは常に画像オーバーレイの上に位置します。テキストオーバーレイは常に画面幅いっぱいになるため、画像の場所を確保するためにオーバーレイ部分を縮めることはできません。テキストオーバーレイの各種の高さについては、[24ページのオーバーレイテキストについて](#)を参照してください。

監視領域の一部を隠すには、プライバシーマスクを使用します。[26ページのプライバシーマスクについて](#)を参照してください。

オーバーレイ画像をアップロードする方法

1. [Video & Audio > Overlay Image (ビデオと音声 > オーバーレイ画像)] に移動します。
2. [Browse (参照)] をクリックして、画像ファイルを参照します。
3. [Upload (アップロード)] をクリックします。
4. [Transparency Settings (透明性の設定)] ページが表示されます。
 - オーバーレイ画像の色を透明にするには、[Use transparency (透明色を使用する)] を選択し、その色のRGB16進値を入力します。例: 白を透明にするには、FFFFFFを入力します。
16進値の例については、[オンラインヘルプ\(?\)](#)を参照してください。
 - 画像を自動的に拡大/縮小するには、[Scale with resolution (解像度に伴う拡大/縮小)] を選択します。画像は、本製品が使用する解像度に合わせて縮小されます。
5. [Save (保存)] をクリックします。

オーバーレイ画像を含める方法

1. [Video & Audio > Overlay Image (ビデオと音声 > オーバーレイ画像)] に移動します。

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

2. **[Use overlay image (このオーバーレイ画像を使用する)]** リストから、使用する画像を選択し、**[Save (保存)]** をクリックします。
3. **[Video & Audio > Video Stream (ビデオと音声 > ビデオストリーム)]** に移動し、**[Image (画像)]** タブを選択します。
4. **[Overlay Settings (オーバーレイの設定)]** の **[Include overlay image at the coordinates (次の位置にオーバーレイ画像を表示する)]** を選択します。
5. 画像の位置を制御するには、X(水平)座標とY(垂直)座標を入力します。x=0とy=0位置は、左上隅です。画像の一部がビデオ映像からはみ出した位置に配置された場合、オーバーレイ画像が画像全体で表示されるように移動します。
6. **[Save] (保存)** をクリックします。

プライバシーマスクについて

プライバシーマスクは、監視領域の一部を隠すユーザー定義のエリアです。プライバシーマスクは塗りつぶされたブロックとして表示され、ビデオストリームに適用されます。VAPIX®アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) を使用して、プライバシーマスクをバイパスすることはできません。

[Privacy Mask List (プライバシーマスクのリスト)]**[Video & Audio (映像と音声)] > [Privacy Mask (プライバシーマスク)]**には、本製品で現在設定されているすべてのプライバシーマスクが表示され、それらが有効かどうかを示されています。

新しいプライバシーマスクの追加、マウスを使用したプライバシーマスクのサイズ変更、プライバシーマスクの色選択、プライバシーマスクの命名ができます。

詳細については、オンラインヘルプ(?)を参照してください。

重要

多数のプライバシーマスクを追加すると、本製品のパフォーマンスに影響する場合があります。

音声設定の変更方法

本製品の音声の設定を変更するには、**[Video & Audio > Audio Settings (ビデオと音声 > 音声の設定)]** に移動します。

ビデオストリームに音声ストリームを含めるには、**[Video & Audio] > [Video Stream] (ビデオと音声 > ビデオストリーム)** に移動します。**[Audio] (音声)** タブで、**[Enable audio] (音声を有効にする)** を選択します。

各ストリームプロファイルは別々のビデオストリームです。音声ストリームをすべてのストリームプロファイルに含めるには、それぞれの **[Stream profile settings] (ストリームプロファイルの設定)** ページの **[Audio] (音声)** タブに移動し、音声を有効にします。詳細については、**21ページのストリームプロファイルについて**を参照してください。

音声モード

本製品では、以下の音声モードを使用できます。

- **全二重** – 双方向同時音声。音声の送受信を同時に行うことができます。
エコーキャンセルには対応していないので、フィードバックループが発生する場合は、マイクまたはスピーカーを動かしてみてください。
- **半二重** – 音声を送受信できますが、一度に1方向のみ可能です。**[Live View] (ライブビュー)** ページを使用して音声を送信するには、**[Talk] (話す)** ボタンと **[Listen] (聞く)** ボタンを使用します (**13ページのAMCの音声コントロール**を参照)。
- **単方向 – ネットワークカメラのスピーカーのみ** - 音声はクライアントから本製品に送信され、本製品に接続されたスピーカーで再生することができます。**[Live View] (ライブビュー)** ページを使用して音声を送

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

信するには、[Talk] (話す) ボタンと [Microphone] (マイク) ボタンの両方をオンにする必要があります (13ページのAMCの音声コントロールを参照)。

- ・ **単方向 - ネットワークカメラのマイクのみ** - 音声は本製品のマイクで捕捉され、1台または複数のクライアントに送信されます。

音声モードを設定するには、[Video & Audio] > [Audio Settings] (ビデオと音声 > 音声の設定) に移動し、[Audio mode] (音声モード) ドロップダウンリストからモードを選択します。

音声入力

外部マイクまたはラインソースは、音声入力コネクタに接続できます。音声入力の設定は、[Video & Audio] (ビデオと音声) > [Audio Settings] (音声の設定) で行います。

注意

使用する場合、アンバランス型ラインをモノラル接点で使用する必要があります。信号 (チップ)、グラウンド (スリーブ)。

注意

使用する場合、バランス型ラインをステレオ接点で使用する必要があります。ホット (チップ)、コールド (リング)、グラウンド (スリーブ)。

外部マイクを使用する場合は、[Microphone] (マイク) を選択し、音声ソースとしてライン入力装置 (複数のマイク用音声ミキサーやアンプ内蔵マイクなど) を使用する場合は、[Line] (ライン) を選択します。

ライン入力または外部マイクが [Balanced] (バランス型) の場合は、[Yes] (はい) オプションを選択します。

[Microphone power] (マイク電源) オプションを選択すると、外部マイクにDC電源が供給されます。

[Microphone power] (マイク電源) オプションは、外部マイク向けに利用できます。マイクがアンバランス型かバランス型かに応じて、5V DC電源または12Vファンタム電源を使用できます。マイク電源は、バッテリーを持たないマイクを使用する場合にのみ使用してください。ダイナミックマイクやバッテリーで給電するマイクを使用する場合は、この設定を有効にしないでください。

48Vファンタム電源を必要とする本格的なマイクを使用する場合は、外部電源と電源/マイク間のバランス/アンバランスコンバータ (音声周波変圧器) が必要になります。

[Input gain] (入力ゲイン) を使用して、音声入力の音量をコントロールしてください。音声が小さすぎる場合は、高いdB値を選択して音声を増幅し、音声が大きすぎる場合は、低いdB値を選択します。[Level] (レベル) バーは、フルスケール入力レベルに相対的な音声信号レベルをdBで視覚的に表示します。

- ・ 緑 — 信号が良好なレベルです。
- ・ 黄 — 信号が歪みつつあります。
- ・ 赤 — 信号が歪んでいます。

[Encoding] (エンコーディング) オプションを使用して、デジタル音声のエンコード方式を選択してください。

- ・ AACは、エンコードとデコードの両方のライセンスが必要です。AACは最も簡単で、最も広く利用されているコーデックです。最良の音声品質が優先事項の場合は、AACを使用することを推奨します。本製品には、AACのライセンスが含まれています。
- ・ G711は、VoIPシステムで音声を使用する際に役立つ、ライセンス不要の標準コーデックです。
- ・ G726は、セキュリティ業界で最も一般的に利用されている、ライセンス不要の音声コーデックです。

注意

[Sample rate] (サンプリングレート) は、1秒あたりの音声のサンプリング回数を規定します。サンプリングレートを高くすると音声品質は向上しますが、帯域幅の使用量が増大します。

AXIS F41 Main Unit

ビデオと音声

選択したエンコード方式に応じて、必要な **[Bit rate] (ビットレート)** を設定してください。ビットレートを高くすると、音声品質が向上します。ビットレートを低くすると遅延が発生するおそれがありますが、帯域幅の使用量は減少します。

これらの設定の詳細については、オンラインヘルプ ([?](#)) を参照してください。

音声出力

外部スピーカーを音声出力コネクタに接続できます (アンプ内蔵のアクティブスピーカーが必要です)。出力は、スピーカー付きの別のアンプに接続できます。音声出力には、ステレオコネクタを使用する必要があります。

音声出力の設定は、**[Video & Audio] (ビデオと音声) > [Audio Settings] (音声の設定)** で行います。

出力ゲイン - ライン音声出力の音量を調整します。音声小さすぎる場合は、高い dB 値を選択します。音声が大きすぎる場合は、低い dB 値を選択します。

オーディオクリップ

オーディオクリップは、イベントの発生時に再生するか、**[Live View] (ライブビュー)** ページから直接再生することができる音声ファイルです。オーディオクリップは、まず、本製品にアップロードするか、本製品に接続されたマイクで録音する必要があります。

オーディオクリップを追加、ダウンロード、変更、削除するには、**[Video & Audio] > [Audio Clips] (ビデオと音声 > オーディオクリップ)** に移動します。詳細については、オンラインヘルプ ([?](#)) を参照してください。

イベントの発生時にオーディオクリップを再生するには、アクションルールを設定する必要があります。詳細については、39ページの、**イベント** を参照してください。

注意

本製品の音声機能が有効になっていない場合、オーディオクリップは使用できません。音声機能は、**[Video & Audio] > [Video Stream] (ビデオと音声 > ビデオストリーム)** の **[Audio] (音声)** タブで有効にすることができます。

AXIS F41 Main Unit

ライブビューページの設定

ライブビューページの設定

ライブビューページは、特定の要件に合わせてカスタマイズすることができます。ライブビューページでは、以下の機能を設定することができます。

- ・ ストリームプロファイル。27ページを参照してください。
- ・ ブラウザーのデフォルトビューア。29ページを参照してください。
- ・ ビューアの設定。29ページを参照してください。
- ・ アクションボタン。12ページのライブビューウィンドウのコントロールについてで説明されているボタンです。
- ・ ユーザー定義リンク。30ページを参照してください。
- ・ 出力ボタン。30ページを参照してください。

ブラウザーのデフォルトビューア

Live View Config > Default Viewer (ライブビューの設定 > デフォルトビューア) で、ブラウザーでビデオ映像を閲覧するデフォルトの方法を選択します。本製品では、選択されたビデオ形式とビューアでビデオ映像を表示します。それができない場合は、設定を一時変更し、使用可能な最良の組み合わせを選択します。

| ブラウザー | 閲覧者 | 説明 |
|---------------------------|-----------|---|
| Windows Internet Explorer | AMC | Internet Explorerでの推奨ビューア (H.264/Motion JPEG) |
| | QuickTime | H.264 |
| | 静止画像 | 静止画像のみを表示します。ブラウザーの更新ボタンをクリックして、新しい映像を表示します。 |
| その他のブラウザー | サーバープッシュ | その他のブラウザーでの推奨ビューア (Motion JPEG)。 |
| | QuickTime | H.264 |
| | 静止画像 | 静止画像のみを表示します。ブラウザーの更新ボタンをクリックして、新しい映像を表示します。 |

詳細については、オンラインヘルプ  を参照してください。

ビューアの設定について

ビューアのオプションを設定するには、[Live View Config > Viewer Settings (ライブビューの設定 > ビューアの設定)] に移動します。

- ・ [Show viewer toolbar (ビューアのツールバーを表示する)] を選択すると、ブラウザー内のビデオ画像の下にAXIS Media Control (AMC) またはQuickTimeのビューアツールバーが表示されます。
- ・ H.264 デコーダーのインストール。管理者は、AXIS Media Controlに含まれているH.264デコーダーのインストールを無効にすることができます。この機能は、ライセンスのない不正コピーのインストールを防止するために使用します。追加デコーダーライセンスは、Axis販売代理店から購入できます。
- ・ [Enable recording button (録画ボタンを使用する)] を選択すると、ライブビューページからの録画が有効になります。このボタンはAMCビューアの使用時に使用できます。録画は、AMCコントロールパネルで指定した場所に保存されます。15ページのAXIS Media Control (AMC) についてを参照してください。

AXIS F41 Main Unit

ライブビューページの設定

ユーザー定義リンクについて

ユーザーが定義したリンクをライブビューページに表示するには、[Show custom link (カスタムリンクを表示)] オプションを選択し、リンク名とリンク先のURLを入力します。Webリンクを指定する場合は、「http://」を付けてURLアドレスを入力します。カスタムリンクは、スクリプトを実行したり、本製品に接続された外部デバイスを作動させる目的で使用できます。また、Webページへのリンクとして使用することもできます。カスタムリンクをCGIリンクとして定義すると、非表示のフレーム上でスクリプトをバックグラウンドで実行できます。リンクをWebリンクとして定義すると、リンクが新しいウィンドウで開きます。

出力ボタン

本製品の出力ポートに接続されている外部I/Oデバイスは、ライブビューページから直接制御できます。

ライブビューページに出力ボタンを表示するには、以下の操作を行います。

1. [Setup > Live View Config (設定 > ライブビューの設定)] に移動します。
2. [出力ボタン] で、使用するコントロールのタイプを選択します。
 - [パルス] - 設定した時間だけ出力がアクティブになります。1/100秒～60秒の範囲で設定できます。
 - [アクティブ/非アクティブ] - アクションごとに1つ、合計2つのボタンを表示します。

アクティブ状態および非アクティブ状態の設定を行うには、[System Options > Ports & Devices > I/O Ports (システムオプション > ポートとデバイス > I/Oポート)] に移動して、ポートの [Normal state (標準状態)] を設定します。

I/Oポートの詳細については、60ページのI/Oポートを参照してください。

AXIS F41 Main Unit

検知

検知

カメラに対するいたずらについて

カメラの向きを変える、レンズを覆う、スプレーをかける、ピントをひどくぼかすなどのいたずら行為が行われた場合は、アラームを発生させます。電子メールなどでアラームを送信するには、アクションルールを設定する必要があります。

いたずら検知の設定方法

1. [Detectors > Camera Tampering (検知 > カメラに対するいたずら)] に移動します。
2. [最短継続時間] を設定します。この時間を経過するとアラームが生成されます。時間を増やして、映像に影響する既知の条件に対して誤ったアラームが発せられるのを防ぎます。
3. 明かりが弱くなったり、消されたとき、またはレンズがスプレーされたり、覆われたり、ひどく焦点がぼかされたときに、アラームを生成する必要がある場合は、[画像が暗くなったらアラーム生成] を選択します。
4. [保存] をクリックします。

いたずらアラームのアクションルールを設定する方法

1. [Events > Action Rules (イベント > アクションルール)] に移動します。
2. [追加] をクリックして、新しいアクションルールを設定します。
3. アクションルールの [名前] を入力します。
4. [条件] メニューで、[トリガー] リストから [検知] を選択します。
5. 検知のリストから [いたずら] を選択します。
6. 必要に応じて、スケジュールを選択し、追加条件を設定します。
7. アクションを選択します。例: 電子メールを送信するには、[通知を送信] を選択し、定義済み送信先リストから [送信先] を選択します。

注意

カメラに対するいたずらには継続時間の設定がなく、一度トリガーされると非トリガー状態に自動的に戻ることがないため、[継続時間] の [ルールがアクティブである間] オプションは使用できません。

アクションルールの詳細については、39ページの、イベントを参照してください。

音声検知

本製品は、音声レベルが閾値を上回るか下回るとアラームを発生するように設定できます。閾値は、0~100の範囲で設定できます。0に設定すると最も感度が高くなり、100に設定すると最も感度が低くなります。

1. [Detectors] > [Audio Detection] (検知器 > 音声検知) に移動します。
2. 音声アラームレベルを設定し、[Save] (保存) をクリックします。
3. [Events] > [Action Rules] (イベント > アクションルール) に移動し、アクションルールを設定します。39ページのアクションルールの設定を参照してください。

検知された音声は、アクティビティインジケータで、さまざまな色のピークで示されます。検知された音声は、バーで示される閾値を上回るか下回ると、イベントがトリガーされます。

AXIS F41 Main Unit

アプリケーションについて

アプリケーションについて

AXIS Camera Application Platform (ACAP) は、サードパーティによるAxis製品向けの分析アプリケーションやその他のアプリケーションの開発を可能にするオープンプラットフォームです。入手可能なアプリケーション、アプリケーションのダウンロード、試用版アプリケーション、およびライセンスの詳細については、axis.com/applicationsを参照してください。

Axisアプリケーションのユーザーズマニュアルについては、axis.comを参照してください。

注意

- 同時に複数のアプリケーションを実行することも可能ですが、中には互換性のないアプリケーションもあります。アプリケーションの特定の組み合わせによっては、並行して実行すると過度の処理能力やメモリーリソースが必要になる場合があります。アプリケーションを展開する前に、同時に実行できることを確認してください。

アプリケーションのライセンスについて

一部のアプリケーションの実行にはライセンスが必要です。ライセンスは以下の2つの方法でインストールすることができます：

- 自動インストーラー – インターネットへのアクセスが必要です。
- 手動インストーラー – アプリケーションベンダーからライセンスキーを入手して、本製品にアップロードします。

ライセンスを要求するには、本製品のシリアル番号 (S/N) が必要です。シリアル番号は、製品ラベルと **[System Options > Support > System Overview (システムオプション > サポート > システムの概要)]** で確認できます。

アプリケーションをアップロードして起動する方法

アプリケーションをアップロードして起動するには：

- [Setup > Applications (設定 > アプリケーション)]** に移動します。
- [Upload Application (アプリケーションのアップロード)]** で **[Browse (参照)]** をクリックします。アプリケーションファイルの場所を指定して、**[Upload Package (パッケージのアップロード)]** をクリックします。
- ライセンスをインストールします (該当する場合)。手順については、アプリケーションベンダーによって提供されたマニュアルを参照してください。
- アプリケーションを起動します。**[Applications (アプリケーション)]** に移動し、インストール済みのアプリケーションのリストからアプリケーションを選択し、**[Start (開始)]** をクリックします。
- アプリケーションの設定を行います。手順については、アプリケーションベンダーによって提供されたマニュアルを参照してください。

注意

- アプリケーションは製品管理者がアップロードできます。
- AXIS Camera Managementバージョン3.10以降を使用すると、アプリケーションとライセンスを複数の製品に同時にインストールすることができます。

アプリケーションのログファイルを生成するには、**[Applications (アプリケーション)]** に移動します。アプリケーションを選択して、**[Log (ログ)]** をクリックします。

AXIS F41 Main Unit

アプリケーションについて

アプリケーションの注意事項

アプリケーションをアップグレードすると、ライセンスを含むアプリケーションの設定は削除されます。ライセンスを再インストールし、アプリケーションを再設定する必要があります。

本製品のファームウェアをアップグレードした場合、アップロードしたアプリケーションとその設定は変更されませんが、Axis Communications はそれを保証するものではありません。アプリケーションは新しいファームウェアに対応している必要があるので、ご注意ください。ファームウェアのアップグレードについては、63ページのファームウェアのアップグレード方法を参照してください。

本製品を再起動すると、実行中のアプリケーションも自動的に再起動されます。

本製品を復元または工場出荷時の設定にリセットすると、アップロードされたアプリケーションとその設定は削除されます。本製品の復元の詳細については、60ページの保守を参照してください。工場出荷時の設定の詳細については、62ページの工場出荷時の設定にリセットする方法を参照してください。

AXIS F41 Main Unit

AXIS Video Motion Detection

AXIS Video Motion Detection

AXIS Video Motion Detectionは、カメラの視野で動く物体を検知するアプリケーションです。動体を検知するとAXIS Video Motion Detectionはアラームを送信し、それをAxis製品またはサードパーティ製ソフトウェアが使用してビデオの録画または通知の送信などを行います。

AXIS Video Motion Detection 3はAxis製品に含まれており、[Setup > Applications (設定 > アプリケーション)]で利用できます。AXIS Video Motion Detectionを使用するには、アプリケーションをまず起動する必要があります。不要なオブジェクトの検出を避けるために、アプリケーションを設定する必要があります。設定の際、異なるフィルターの効果を理解するために映像による確認を行うことができます。視覚的な確認を有効にすると、このアプリケーションが検出している物体を赤色のポリゴンで示します。緑色のポリゴンは、アプリケーションが無視している物体を示します。

注意点

AXIS Video Motion Detection 3を使用する前に、以下をご確認ください。

- ・ 離れた場所にある小さな物体は検知できないことがあります。
- ・ 検知精度は、豪雨や降雪など、気象条件の影響を受けることがあります。
- ・ 本製品の仕様書に記載の光量条件をご確認ください。必要に応じて照明を追加してください。
- ・ カメラが過剰な振動にさらされないよう、注意してください。振動により、検知に失敗することがあります。

アプリケーションの開始と停止

アプリケーションを起動するには、Applications (アプリケーション) ページのInstalled Applications (インストールされているアプリケーション) でアプリケーションを選択し、Start (開始) をクリックします。

アプリケーションを停止するには、リストからアプリケーションを選択し、Stop (停止) をクリックします。

アプリケーションの設定

アプリケーションは、Setup > Applications > Motion Detection 3 (設定 > アプリケーション > Motion Detection 3) から利用できます。Settings (設定) に移動し、AXIS Video Motion Detection settings (AXIS Video Motion Detection の設定) をクリックして、アプリケーションのWebページを開きます。

AXIS Video Motion Detection 3を設定するには、以下の手順にしたがいます。

1. 対象範囲のサイズと位置を変更します。対象範囲とは、動体を検知するエリアです。詳細については、35ページの対象範囲を参照してください。
2. 必要に応じて、1つ以上の除外範囲を追加できます。除外範囲にある物体は無視されます。詳細については、35ページの除外範囲を参照してください。
3. 設定を適用するには、Save (保存) をクリックします。
4. 仮想設定を使用して、設定の確認を行います。詳細については、35ページの映像による確認を参照してください。
5. 不要な物体を多数検知してしまう場合は、1つ以上の無視フィルターを有効にして、設定します。詳細については、36ページの無視フィルターを参照してください。

設定の修正後、Save (保存) をクリックして変更を適用します。ビデオストリームが再開します。変更が適用されるまで、数秒かかる場合があります。

AXIS F41 Main Unit


AXIS Video Motion Detection

対象範囲

対象範囲とは、動体を検知するエリアです。対象範囲外にある動体は無視されます。物体の一部のみが対象範囲に入った場合でも、物体は検知されます。

注意

対象範囲を変更するには、Internet ExplorerとAXIS Media Control (AMC) が必要です。

デフォルトの対象範囲は、画像全体をカバーする正方形です。対象範囲を強調表示するには  アイコンをクリックします。

映像中の、動体を検知する必要のある部分だけがカバーされるよう、マウスを使用して対象範囲を成型し、サイズを変更します。デフォルトの正方形は、最大20の頂点を持つポリゴンに変更できます。

- 新しい頂点を追加するには、対象範囲の境界をクリックし、頂点を希望の位置までドラッグします。
- 頂点を削除するには、頂点を右クリックします。
- 頂点を動かすには、頂点を新しい位置までドラッグします。
- 対象範囲を移動するには、マウスポインターを対象範囲内に移動します。十字型に変わったポインターを使用して、対象範囲を新しい位置までドラッグします。
- 対象範囲を選択するには、境界をクリックします。

対象範囲をデフォルトのサイズに戻すには、**Reset (リセット)** をクリックします。

除外範囲

除外範囲とは、動体を無視するエリアです。対象範囲内に、不要な検知対象物体が多数出現するエリアがある場合、除外範囲を使用します。最大で10の除外範囲を使用できます。

注意

除外範囲を追加または変更するには、Internet ExplorerとAXIS Media Control (AMC) が必要です。

除外範囲を追加するには、**Add (追加)** をクリックします。デフォルトでは、除外範囲は画像の中央に正方形で設定されています。マウスを使用して画像の希望の部分がカバーされるようにエリアを移動、成形、サイズ変更します。デフォルトの正方形は、最大20の頂点を持つポリゴンに変更できます。

- 除外範囲を移動するには、マウスポインターを除外範囲内に移動します。十字型に変わったポインターを使用して、除外範囲を新しい位置までドラッグします。
- 新しい頂点を追加するには、除外範囲の境界をクリックし、頂点を希望の位置までドラッグします。
- 頂点を削除するには、頂点を右クリックします。
- 頂点を動かすには、頂点を新しい位置までドラッグします。
- 除外範囲を選択するには、境界をクリックします。

除外範囲を削除するには、除外範囲を選択して、**Remove (削除)** をクリックします。

除外範囲を強調表示するには、 アイコンをクリックします。

映像による確認

映像による確認は、設定が正しいこと、つまり検知の必要があるすべての被写体が検知されていることを確認するために使用します。

注意

映像による確認を使用するには、Internet ExplorerとAXIS Media Control (AMC) を使用する必要があります。

AXIS F41 Main Unit

AXIS Video Motion Detection

映像による確認が有効になると、アプリケーションが見つけたすべての動体をポリゴンが囲み、後を追います。赤色のポリゴンは、被写体が動体として発見され、検知されていることを示します。緑色のポリゴンは、被写体が発見されたものの、対象エリアの内側にないか、無視フィルターのどれかが機能しているために無視されていることを示します。

映像による確認を有効にするには、以下の操作を行います。

1. [映像による確認を有効にする] オプションを選択します。
2. [保存] をクリックします。

注意

- 映像による確認は15分後に無効になります。
- 設定を変更したあと、[保存] をクリックして、変更を適用します。ビデオストリームが再起動され、変更が適用されるまでに数秒かかる場合があります。
- 映像による確認を有効にすると、映像遅延が生じる場合があります。

無視フィルター

AXIS Video Motion Detection 3 が不要な被写体を過剰に検知する場合、対象範囲と除外範囲を変更することから始めます。それでも不要な被写体を過剰に検知する場合は、無視フィルターを1つ以上使用します。

サポートする無視フィルター

- 揺らめいている物体 — 短い距離しか移動しない物体を無視するために使用します
- 一時的な物体 — 短い時間しか画像に現れない物体を無視するために使用します
- 小さな物体 — 小さい物体を無視するために使用します

無視フィルターはアプリケーションが発見した動く被写体すべてに適用されます。重要な被写体を無視することがないように慎重に設定する必要があります。


必要がある場合のみ無視フィルターを使用し、できるだけフィルターの使用を少なくします。一度に1つのフィルターを有効化して設定し、別のフィルターを有効化する前に映像で設定を確認します。フィルターを設定するときは、小さいサイズのフィルターから始め、[保存] をクリックして、映像で設定を確認します。必要に応じて、不要な被写体の数が少なくなるまで、フィルターのサイズを少しずつ大きくします。

揺らめいている物体を無視するフィルター

揺らめいている物体フィルターを使用すると、揺れ動く木々、旗、その影など、短い距離しか移動しない被写体は検知されなくなります。このような被写体による誤った検出が多く発生する場合、このフィルターを使用してください。シーンの中の揺らめいている被写体が、大きな池や大きな木など大きい被写体である場合は、フィルターに代わりに除外範囲を使用します。このフィルターは、画像に含まれるすべての動く物体に適用されますが、フィルターが大きすぎる値に設定されていると、重要な被写体が発見されない可能性があります。

揺らめいている物体フィルターが有効の状態、アプリケーションが動く被写体が発見した場合、被写体が設定されたフィルターサイズより長い距離を移動するまで検知対象(映像による確認では赤色)として報告されません。アプリケーションが送信したアラームは、被写体が発見されると送信されます。アラームを使用して録画を開始する場合は、被写体が発見される以前にシーン内で動いた時間も録画に含めるように、プリトリガー時間を設定します。

フィルターを有効にするには、以下の操作を行います。

1. [揺らめいている物体] オプションを選択します。
2.  アイコンをクリックし、画像でフィルターサイズを表示します。
3. マウスでフィルターのサイズを調整します。最初は小さいサイズから始めます。十字の中心からどれかの矢印の先端までの距離よりも短い距離しか移動しない物体は無視されます。フィルターを揺らめいている物体の場所まで移動することによって、フィルターのサイズを調整しやすくなります。このフィルターは、フィルターが表示されている場所にある被写体だけでなく、画像に含まれるすべての被写体に適用されます。

AXIS F41 Main Unit

AXIS Video Motion Detection

4. [保存] をクリックして、フィルターを適用します。
5. 映像を使用して、設定を確認します。
6. 十分な結果が得られない場合は、フィルターのサイズを少しずつ大きくします。

フィルターのサイズは、フィールドに10~50の値を入力して設定することもできます。この値は十字の中心からどれかの矢印の先端までの距離に対応しています。100という値は、物体が最初の地点から画像の幅または高さの3分の1の距離を移動した場合に検知されることを示しています。50という値は、物体が、その距離の半分、つまり画像の幅または高さの6分の1の距離を移動すると検知されることを示しています。

一時的な被写体の無視フィルター

一時的な物体フィルターを使用すると、通過する自動車が発する光線やすばやく動く影など、短時間しか現れない被写体を検知しなくなります。このような被写体による誤った検出が多く発生する場合、このフィルターを使用してください。

一時的な物体フィルターが有効の状態、アプリケーションが動く被写体を発見した場合、被写体は設定時間が経過するまで検知対象(映像による確認では赤色)として報告されません。アプリケーションが送信したアラームは、被写体が検知されると送信されます。アラームを使用して録画を開始する場合は、被写体が検知される以前にシーン内で動いた時間も録画に含めるように、プリトリガー時間を設定します。

フィルターを有効にするには、以下の操作を行います。


1. [一時的な物体] オプションを選択します。
2. フィールドに秒数を入力します。秒数は、被写体の検知までに経過する必要があると想定する最小時間です。最初は小さい数から始めます。
3. [保存] をクリックして、フィルターを適用します。
4. 映像を使用して、設定を確認します。
5. 十分な結果が得られない場合は、フィルターのサイズを少しずつ大きくします。

小さい物体を無視するフィルター

小さい物体フィルターを使用すると、非常に小さい物体を検知しなくなります。たとえば、走行する自動車のみ検知する必要がある場合は、小さい物体フィルターを使用することにより人や動物は検知されません。

小さい物体フィルターを使用する場合は、カメラから離れた被写体は近い被写体よりも小さく映ることを考慮してください。フィルターが人の大きさの被写体を無視するように設定されている場合、カメラの近くにいる人はフィルターサイズより大きいため、検知される可能性があります。

フィルターを有効にするには、以下の操作を行います。

1. [小さい物体] オプションを選択します。
2.  アイコンをクリックし、画像でフィルターサイズを表示します。
3. マウスでフィルターのサイズを調整します。最初は小さいサイズから始めます。移動する被写体が矩形内におさまる場合は無視されます。画像に表示されたフィルターを移動することによって、フィルターのサイズを画像内の被写体のサイズと比較しやすくなります。このフィルターは画像に含まれるすべての被写体に適用され、表示されているフィルター的位置にない被写体にも適用されるので、ご注意ください。
4. [保存] をクリックして、フィルターを適用します。
5. 映像を使用して、設定を確認します。
6. 十分な結果が得られない場合は、フィルターのサイズを少しずつ大きくします。

フィルターのサイズは、フィールドに幅および高さを入力して設定することもできます。幅と高さは無視する被写体の最大の幅と高さであり、画像の幅と高さに対する割合で示されます。5~100の数値を使用できます。

AXIS F41 Main Unit

AXIS Video Motion Detection

アクションルール内でのアプリケーションの使用

次の例では、AXIS Video Motion Detection 3が動きを検知したときに録画を行うように本製品を設定する方法を示します。

1. 本製品にSDカードを挿入するか、本製品のWebページの**Setup > System Options > Storage (設定 > システムオプション > ストレージ)**に移動して、ネットワーク共有を使用するよう設定します。
2. 必要に応じて、**Setup > Video & Audio > Stream Profiles (設定 > ビデオと音声 > ストリームプロファイル)**に移動して、録画に使用するストリームプロファイルを作成します。
3. **Setup > Events > Action Rules (設定 > イベント > アクションルール)**に移動し、**Add (追加)**をクリックして、新しいアクションルールを作成します。
4. **Trigger (トリガー)** ドロップダウンリストから**Applications (アプリケーション)**を選択して、**VMD 3**を選択します。
5. 必要に応じて他の設定を行います。たとえば、特定の期間だけ録画を行う場合は、**Schedule (スケジュール)**を選択します。
6. **Actions (アクション)**の**Type (タイプ)**ドロップダウンリストから**Record Video (ビデオを録画する)**を選択します。
7. 使用するストリームプロファイルとストレージデバイスを選択して、プリトリガー、ポストトリガー時間を設定します。
8. アクションルールが有効であることを確認して、**OK**をクリックします。

注意

アプリケーションが**Trigger (トリガー)**リストに表示されるには、アプリケーションが起動済みであり、ステータスが待機中または実行中である必要があります。

AXIS F41 Main Unit

イベント

イベント

Event (イベント) ページでは、各種のイベントの発生時に本製品がアクションを実行するように設定することができます。たとえば、動きを検知した場合に、録画を開始したり、電子メール通知を送信することができます。いつどのようにアクションをトリガーするかを定義した一連の条件を、アクションルールと呼びます。

アクションルールの設定

アクションルールとは、たとえば映像録画や電子メール通知の送信など、製品がアクションを実行するときの条件を定義するものです。複数の条件が定義されている場合、すべての条件が満たされたときにアクションがトリガーされます。

利用可能なトリガーやアクションの詳細については、39ページのトリガーと40ページのアクションについてを参照してください。

次の例では、カメラの視野に動きがあったとき、ネットワーク共有に映像を記録するアクションルールを設定する方法を示します。

動体検知を設定して、ネットワーク共有を追加します。

1. [Applications (アプリケーション)] に移動し、AXIS Video Motion Detection 3を起動して、設定を行います。34ページの、AXIS Video Motion Detection を参照してください。
2. [System Options > Storage (システムオプション > ストレージ)] に移動して、ネットワーク共有を設定します。59ページを参照してください。

アクションルールを設定します。

1. [Events > Action Rules (イベント > アクションルール)] に移動し、[Add (追加)] をクリックします。
2. [ルールを有効にする] を選択し、ルールの内容がわかりやすい名前を入力します。
3. [トリガー] ドロップダウンリストから [アプリケーション] を選択し、次に [VMD3] を選択します。
4. 必要に応じて、[スケジュール] と [追加条件] を選択します。以下を参照してください。
5. [アクション] の [タイプ] ドロップダウンリストから [映像の録画] を選択します。
6. [ストリームプロファイル] を選択し、[継続時間] を下記のように設定します。
7. [ストレージ] ドロップダウンリストから [ネットワーク共有] を選択します。

アクションルールで複数のトリガーを使用するには、[追加の条件] を選択し、[追加] をクリックして、トリガーを追加します。追加の条件を使用している場合、すべての条件が満たされたときにアクションがトリガーされます。

アクションが繰り返しトリガーされるのを防ぐには、[最小待ち時間] を設定します。アクションが再びアクティブになるまでトリガーを無視する時間を時間、分、秒の形式で入力します。

一部のアクションでは、イベントの直前および直後の時間を含めて記録するように [継続時間] を設定できません。[プリトリガー時間] または [ポストトリガー時間] を選択し、秒数を入力します。[ルールがアクティブである間] が有効で、ポストトリガー時間中に再度アクションがトリガーされた場合、新たなポストトリガー時間が付け加えられて、記録時間が延長されます。

詳細については、オンラインヘルプ(?) を参照してください。

トリガー

アクションルールでは、以下のトリガーと条件を使用できます。

- **アプリケーション** — インストールされているアプリケーションを使用して、ルールをトリガーします。32ページの、アプリケーションについてを参照してください

AXIS F41 Main Unit

イベント

- **VMD3** – AXIS Video Motion Detectionが動く被写体を検知すると、ルールをトリガーします。34ページの、*AXIS Video Motion Detection*を参照してください。
- **検知**
 - **音声検知** – 音声を検知すると、ルールがトリガーされます。31ページの**音声検知**を参照してください
 - **ライブストリームのアクセス** – ストリームへのアクセスがあったときやエッジストレージの再生中にルールがトリガーされます。通知の送信などに使用できます。
 - **いたずら** – いたずらが検出されると、ルールがトリガーされます。31ページの**カメラに対するいたずら**についてを参照してください。
 - **映像ソースの接続** – センサーユニットとメインユニットとの接続時または切断時に、ルールがトリガーされます。
- **ハードウェア**
 - **ネットワーク** – ネットワーク接続が失われるか、回復すると、ルールがトリガーされます。SDカードへの録画を開始するなどの用途に使用できます。
- **入力信号**
 - **デジタル入力ポート** – I/Oポートが接続されているデバイスから信号を受け取ると、ルールがトリガーされます。60ページの**I/Oポート**を参照してください
 - **手動トリガー** – ライブビューページの**[手動トリガー]** ボタンを使用して、ルールをトリガーします。12ページの**ライブビューウィンドウのコントロールについて**を参照してくださいたとえば、本製品の設置や設定を行っている時にアクションを検証するなどの用途に使用できます。
 - **仮想入力** – VMS (映像管理システム) がアクションをトリガーするために使用できます。VMSユーザーインターフェースのボタンなどに仮想入力を接続できます。
- **ストレージ**
 - **破損** – ストレージデバイスに使用不能、取り外し、空き容量不足、ロックなどの問題が検知されたり、その他読み取り/書き込みの問題が発生すると、ルールがトリガーされます。メンテナンス通知を送信するなどの用途に使用できます。
 - **録画** – 本製品がストレージデバイスへの録画を行うと、ルールがトリガーされます。録画状態トリガーは、本製品がストレージデバイスへの録画を開始または停止した場合、LEDを点滅してオペレーターに通知するなどの用途に使用できます。このトリガーはエッジストレージ録画状態にしか使用できないので、ご注意ください。
- **システム**
 - **システムの準備完了** – 本製品が起動し、すべてのサービスが実行されると、ルールがトリガーされます。本製品の再起動時に通知を送信するなどの用途に使用できます。
- **時刻**
 - **繰り返し** – ルールを定期的にトリガーします。43ページの**繰り返しの設定方法**を参照してください。画像を5分おきにアップロードするなどの用途に使用できます。
 - **スケジュール使用** – 選択したスケジュールにしたがって、ルールをトリガーします。43ページの**スケジュールを作成する方法**を参照してください。

アクションについて

いくつかのアクションを設定できます。

- **[Output Port (出力ポート)]** – 外部デバイスを制御するI/Oポートを有効にします。

AXIS F41 Main Unit

イベント

- [Overlay Text (オーバーレイテキスト)] - オーバーレイテキストを表示します。25ページのアクションルールにオーバーレイテキストを含める方法を参照してください。
- [Play Audio Clip (オーディオクリップの再生)] - オーディオクリップを再生します。28ページのオーディオクリップを参照してください。
- [Record Video (ビデオを録画する)] - 選択したストレージにビデオと音声を録画します。音声を録画に含めるには、AAC音声エンコードを使用し、選択したストリームプロファイルで音声が無効になっていることを確認します。
- [Send Images (画像の送信)] - 送信先に画像を送ります。
- [Send Notification (通知を送信する)] - 送信先に通知メッセージを送ります。
- [Send SNMP Trap (SNMPトラップの送信)] - SNMPトラップメッセージをオペレーターに送信します。SNMPが無効であり、[System Options (システムオプション)] > [Network (ネットワーク)] > [SNMP] で設定されていることを確認してください。
- [Send Video Clip (ビデオクリップの送信)] - 送信先にビデオクリップを送ります。
- [Status LED (ステータスLED)] - LEDインジケータを点滅させます。たとえば、本製品の設置や設定中に、動体検知などのトリガーを検証するために使用できます。
- [WDR Mode (ワイドダイナミックレンジモード)] - アクションルールがトリガーされたときに、WDRモードをオンにできます。

送信先を追加する方法

本製品は、イベントについてユーザーに通知するためにメディアファイルとメッセージを送信できます。ただし、本製品がメディアファイルまたは通知メッセージを送信できるようにするには、1件以上の送信先を定義する必要があります。利用可能なオプションについては、41ページの送信先のタイプについてを参照してください。

送信先を追加します。

1. [Events > Recipients (イベント > 送信先)] に移動し、[Add (追加)] をクリックします。
2. わかりやすい名前を入力します。
3. 送信先の [タイプ] を選択します。
4. 送信先のタイプに必要な情報を入力します。
5. [テスト] をクリックして、送信先への接続をテストします。
6. [OK] をクリックします。

送信先のタイプについて

以下の送信先のタイプを利用できます。

| 送信先のタイプ | 用途 | 備考 |
|---------|------------------------------|------------------------------------|
| 電子メール | 画像の送信 通知の送信 ビデオクリップの送信 | 電子メールの送信先には、複数のメールアドレスを含めることができます。 |
| FTP | 画像の送信 ビデオクリップの送信 | |

AXIS F41 Main Unit

イベント

| | | |
|----------|------------------------------|---|
| SFTP | 画像の送信 ビデオクリップの送信 | SSH File Transport Protocol (SFTP)を使用した暗号化ファイルの転送 SFTPはFTPより安全な方式ですが、特に高解像度映像などの大きなファイルの転送に時間がかかる可能性があります。 SFTPサーバーのログイン情報とサーバーの公開鍵 MD5 フィンガープリント (32桁の16進数) を指定します。 SFTP送信先は、RSAおよびDSAホストキータイプによるSSH-2を使用するSFTPサーバーをサポートします。RSAが推奨方式です。DSAを使用するには、SFTPサーバーでRSAキーを無効にします。 |
| HTTP | 画像の送信 通知の送信 ビデオクリップの送信 | |
| HTTPS | 画像の送信 通知の送信 ビデオクリップの送信 | HyperText Transfer Protocol Secure (HTTPS)を使用した暗号化ファイルの転送。 HTTPSサーバーのログイン情報を指定し、サーバーの証明書を確認します。本製品とHTTPSサーバーの間にプロキシがある場合、プロキシ設定も指定します。 |
| ネットワーク共有 | 画像の送信 ビデオクリップの送信 | ネットワーク共有は記録した映像のストレージデバイスとしても使用できます。[System Options > Storage (システムオプション > ストレージ)]に移動して、ネットワーク共有を設定してから、連続録画の設定や映像を録画するアクションルールの設定を行います。ストレージデバイスの詳細については、57ページのストレージを参照してください。 |
| TCP | 通知の送信 | |

電子メールの送信先を設定する方法

電子メールの送信先は、電子メールプロバイダーのリストから選択したり、企業の電子メールサーバーなどのSMTPサーバー、ポート、認証方法を指定して設定することができます。

注意

一部の電子メールプロバイダーは、大量の添付ファイルの受信や表示を防止したり、スケジュールにしたがって送信された電子メールなどの受信を防止するセキュリティフィルターを備えています。電子メールプロバイダーのセキュリティポリシーを確認して、メールの送信の問題が発生したり、電子メールアカウントがロックされたりしないようにしてください。

プロバイダーのリストからメール送信先を設定します。

1. [Events > Recipients (イベント > 送信先)] に移動し、[Add (追加)] をクリックします。
2. [名前] を入力して、[タイプ] リストから [電子メール] を選択します。
3. メール送信先のアドレスを [送信先] フィールドに入力します。複数のアドレスを指定する場合は、カンマで区切ります。
4. [プロバイダー] リストから電子メールプロバイダーを選択します。
5. 電子メールアカウントのユーザーIDとパスワードを入力します。
6. [テスト] をクリックして、テストメールを送信します。

AXIS F41 Main Unit

イベント

たとえば、企業メールサーバーを使用しているメール送信先を設定するには、上記の手順で、[プロバイダー]ではなく[ユーザー定義]を選択します。送信元として表示するメールアドレスを、[送信元]フィールドに入力します。[詳細設定]を選択し、SMTPサーバーのアドレス、ポート、認証方法を指定します。必要に応じて、[暗号の使用]を選択し、暗号化された接続を使用してメールを送信します。サーバー証明書の検証には、本製品で利用できる証明書を使用できます。証明書をアップロードする方法については、50ページの**証明書**についてを参照してください。

スケジュールを作成する方法

スケジュールは、営業時間外に動きを検知した場合にビデオを記録するなど、アクションルールのトリガーとして、または追加条件として使用できます。既定のスケジュールのどれかを使用するか、または以下のように新しいスケジュールを作成します。

新しいスケジュールを作成するには:

1. [Events > Schedules (イベント > スケジュール)] に移動して、[Add (追加)] をクリックします。
2. 日次、週次、月次、または年次スケジュールに必要なわかりやすい名前と情報を入力します。
3. [OK] をクリックします。

アクションルールでスケジュールを使用するには、[Action Rule Setup] (アクションルール設定) ページの [Schedule (スケジュール)] ドロップダウンリストからスケジュールを選択します。

繰り返しの設定方法

繰り返しは、たとえば5分ごとまたは1時間ごとにアクションルートを繰り返しトリガーする場合に使用します。

繰り返を設定するには:

1. [Events > Recurrences (イベント > 繰り返し)] に移動し、[Add (追加)] をクリックします。
2. わかりやすい名前と繰り返しのパターンを入力します。
3. [OK] をクリックします。

アクションルールで繰り返しの設定を使用するには、まずアクションルール設定ページの [トリガー] ドロップダウンリストから [時刻] を選択し、2番目のドロップダウンリストで [繰り返し] を選択します。

繰り返しを変更または削除するには、[繰り返しリスト] から [繰り返し] を選択し、[変更] または [削除] をクリックします。

AXIS F41 Main Unit

録画について

録画について

本製品は、映像を連続的に録画したり、アクションルールに従って録画するように設定できます。

- 連続録画 - 45ページを参照。
- アクションルールの設定 - 39ページを参照。
- 録画へのアクセス - 44ページの録画の検索方法を参照。
- 録画の再生 - 45ページの録画の再生方法を参照。
- 録画をビデオクリップとしてエクスポート - 45ページのビデオクリップをエクスポートする方法を参照。
- カメラのストレージの設定 - 57ページのストレージを参照。

録画の検索方法

SDカードまたはネットワーク共有に保存された録画は、[Recordings > List (録画 > リスト)] ページからアクセスできます。このページには、ストレージデバイス上のすべての録画が一覧表示され、各録画の開始日時、長さ、および録画をトリガーしたイベントが表示されます。

注意

録画の開始日時は、本製品の日付と時刻の設定に従って設定されます。本製品が使用場所のタイムゾーンとは別のタイムゾーンを使用するように設定されている場合、本製品のタイムゾーンに従って [Recording time (録画時刻)] フィルターを設定してください。日付と時刻の設定は、[System Options > Date & Time (システムオプション > 日付と時刻)] で行います。51ページの日付と時刻を参照してください。

録画を検索するには、以下の手順に従います。

1. [Recordings > List (録画 > リスト)] に移動します。
2. 表示される録画の数を減らすには、[Filter (フィルター)] から目的のオプションを選択します。
[Recording time (録画時刻)] – [From (開始)] 時刻と [To (終了)] 時刻の間に開始した録画を一覧表示します。
[Event (イベント)] – 特定のイベントによってトリガーされた録画を一覧表示します。[continuous (連続)] を選択すると、連続録画が一覧表示されます。
[Storage (ストレージ)] – 特定のストレージデバイスの録画が一覧表示されます。
[Sort (並べ替え)] – リスト内の録画を並べ替える方法を指定します。
[Results (結果)] – 表示する録画の最大数を指定します。
3. フィルターを適用するには、[Filter (フィルター)] ボタンをクリックします。フィルターによっては、完了までに時間がかかることがあります。
4. 録画は、[Recording (録画)] リストに表示されます。

録画を再生するには、録画を選択して、[Play (再生)] をクリックします。45ページの録画の再生方法も参照してください。

録画の詳細情報を表示するには、録画を選択し、[Properties (プロパティ)] をクリックします。

録画または録画の一部をビデオクリップとしてエクスポートするには、録画を選択して、[Export (エクスポート)] をクリックします。45ページのビデオクリップをエクスポートする方法も参照してください。

録画をストレージデバイスから削除するには、録画を選択して、[Remove (削除)] をクリックします。

AXIS F41 Main Unit

録画について

録画の再生方法

SDカードまたはネットワーク共有に保存された録画は、本製品のWebページから直接再生できます。

録画を再生するには、以下の手順に従います。

1. [Recordings > List (録画 > リスト)] に移動します。
2. 表示される録画の数を減らすには、[Filter (フィルター)] から目的のオプションを選択して、[Filter (フィルター)] ボタンをクリックして、フィルターを適用します。44ページの録画の検索方法も参照してください。
3. 録画を選択して、[Play (再生)] をクリックします。録画が新しいブラウザウィンドウで再生されます。

ビデオクリップをエクスポートする方法

SDカードまたはネットワーク共有上の録画をビデオクリップとしてエクスポートできます。録画全体または録画の一部をエクスポートできます。

注意

エクスポートされる録画は、Matroskaビデオファイル(.mkv)です。録画をWindows Media Playerで再生するには、AXIS Matroskaファイルスプリッターをインストールする必要があります。AXIS Matroskaファイルスプリッターは、www.axis.com/support/downloadsからダウンロードできます。

ビデオクリップをエクスポートするには、以下の手順に従います。

1. [Recordings > List (録画 > リスト)] に移動します。
2. 表示される録画の数を減らすには、[Filter (フィルター)] から目的のオプションを選択して、[Filter (フィルター)] ボタンをクリックして、フィルターを適用します。44ページの録画の検索方法も参照してください。
3. 録画を選択して、[Export (エクスポート)] をクリックします。[Export Recording (録画のエクスポート)] ダイアログが開きます。
4. デフォルトでは、録画全体が選択されます。録画の一部をエクスポートするには、開始時刻と終了時刻を変更します。
5. オプションで、録画のファイル名を入力します。
6. [Export (エクスポート)] をクリックします。

注意

録画は、再生ウィンドウからもエクスポートできます。

連続録画

本製品は、ビデオを連続的にストレージデバイスに保存するように設定することができます。ストレージデバイスについては、57ページのストレージを参照してください。ディスクが満杯になるのを防ぐため、古い録画は自動的に削除するように設定することをお勧めします。

録画中に新しいストリームプロファイルを選択した場合、録画は停止され、録画リストに保存され、新しいストリームプロファイルの録画が開始されます。以前の連続録画はすべて、手動で削除するか、古い録画として自動的に削除されるまで、録画リストに残ります。

連続録画を開始するには、次の手順に従います。

1. Recordings > Continuous (録画 > 連続) に移動します。
2. Enabled (有効) を選択します。

AXIS F41 Main Unit

録画について

3. **Storage (ストレージ)** リストからストレージデバイスのタイプを選択します。
4. **Stream profile (ストリームプロファイル)** で、連続録画に使用するプロファイルを選択します。録画に音声を含めるには、AAC 音声エンコード方式を使用し、選択したストリームプロファイルで音声が無効になっていることを確認します。
5. **Save (保存)** クリックして設定を保存し、録画を開始します。

AXIS F41 Main Unit

言語について

言語について

本製品には複数の言語をインストールできます。オンラインヘルプを含むすべてのWebページが選択した言語で表示されます。言語を切り替えるには、[Setup (設定)] > [Languages (言語)] に移動して、新しい言語ファイルをアップロードします。ファイルの場所を指定し、[Upload Language (言語のアップロード)] ボタンをクリックします。リストから新しい言語を選択して、[Save (保存)] をクリックします。

注意

- 本製品を工場出荷時の設定にリセットすると、アップロードした言語ファイルは消去され製品の言語が英語に戻ります。
- [Maintenance (メンテナンス)] ページの [Restore (復元)] ボタンをクリックした場合は、言語への影響はありません。
- ファームウェアのアップグレードを行っても、使用中の言語は変更されませんが、新しい言語がアップロードされている状態でファームウェアのアップグレードを行うと、翻訳文が製品のWebページに適合しなくなる可能性があります。その場合は、更新された言語ファイルをアップロードしてください。
- 現在またはそれ以降のバージョンの言語をアップロードすると、製品に先にインストールされていた当該言語が置き換えられます。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

システムオプションについて

セキュリティ

ユーザー

ユーザーアクセスコントロールは、デフォルトで有効になっていて、[System Options > Security > Users (システムオプション > セキュリティ > ユーザー)] で設定できます。管理者は、ユーザー名とパスワードを付与して、ユーザーを設定できます。匿名の閲覧者によるログインを許可することもできます。その場合、誰でもライブビューページにアクセスできるようになります。

ユーザーリストには、権限のあるユーザーとユーザーグループ(アクセスレベル)が表示されます。

- ・ **閲覧者**には、ライブビューページへのアクセス権があります。
- ・ **オペレーター**には、次の操作を除く、すべての設定に対するアクセス権があります。
 - プライバシーマスク設定の作成と変更
 - アプリケーションと言語ファイルのアップロード
 - [System Options (システムオプション)] に含まれるすべての設定
- ・ **管理者**には、すべての設定に対する無制限のアクセス権があります。管理者は他のユーザーを追加、変更、削除できます。

注意

[暗号化および非暗号化] オプションを選択すると、Webサーバーがパスワードを暗号化します。暗号化および非暗号化は、新しい製品または工場出荷時の設定にリセットされた製品のデフォルトオプションです。

[HTTP/RTSP パスワードの設定] で、許可するパスワードのタイプを選択します。暗号化に対応していないクライアントが閲覧する場合や、最近ファームウェアをアップグレードしたばかりで、既存のクライアントは暗号化に対応しているが、再ログインして設定を行わないと暗号化機能を使用できない場合は、非暗号化パスワードの使用を許可する必要があります。

匿名のユーザーがライブビューページにアクセスできるようにするには、[ユーザー設定] で [匿名の閲覧者によるログインを有効にする] オプションを選択します。

[基本設定] メニューを非表示にするには、[基本設定メニューを有効する] の選択を解除します。[基本設定] メニューを使用すれば、本製品を使用する前に行う必要がある設定にすばやくアクセスできます。

ONVIF

ONVIF (Open Network Video Interface Forum) は、グローバルなインターフェース標準として、エンドユーザー、インテグレーター、コンサルタント、メーカーによるネットワークビデオ技術の可能性の利用を容易にします。ONVIFは、さまざまなベンダー製品間の相互運用性、柔軟性の向上、コストの低減、陳腐化しないシステムを可能にします。

ユーザーを作成すると、ONVIF通信が自動的に有効となります。製品とのすべてのONVIF通信には、ユーザー名とパスワードを使用します。詳細については、www.onvif.orgを参照してください。

IPアドレスフィルター

IPアドレスフィルタリングは、[System Options > Security > IP Address Filter (システムオプション > セキュリティ > IPアドレスフィルター)] で有効にします。IPアドレスフィルタリングが有効になると、リスト内のIPアドレスからの本製品へのアクセスは許可または拒否されます。リストから [許可] または [拒否] を選択し、[適用] をクリックして、IPアドレスフィルタリングを有効にします。

管理者は、最大256のIPアドレスをリストに追加できます(1つのエントリーに複数のIPアドレスを含めることができます)。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

HTTPS

HTTPS (HyperText Transfer Protocol over Secure Socket Layer、またはHTTP over SSL) は暗号化されたブラウジングを可能にするWebプロトコルです。ユーザーやクライアントがHTTPSを使用して、適切なデバイスがアクセスしているかを検証することもできます。HTTPSが提供するセキュリティレベルは、ほとんどの商用情報の交換に十分適合していると考えられています。

本製品は、別のユーザーグループ(管理者、オペレーター、閲覧者)のユーザーがログインしたときに、HTTPSが必要かどうかを設定できます。

HTTPSを使用するには、まずHTTPS証明書をインストールする必要があります。[System Options > Security > Certificates (システムオプション>セキュリティ>証明書)]に移動して、証明書のインストールと管理を行います。50ページの証明書についてを参照してください。

本製品でHTTPSを有効にするには、以下の操作を行います。

1. [System Options > Security > HTTPS (システムオプション>セキュリティ>HTTPS)]に移動します。
2. インストール済み証明書のリストからHTTPS証明書を選択します。
3. 必要に応じて、[暗号]をクリックして、SSLで使用する暗号化アルゴリズムを選択します。
4. [HTTPS接続ポリシー]をユーザーグループごとに設定します。
5. [保存]をクリックすると、設定が有効になります。

希望するプロトコルを使用して本製品にアクセスするには、ブラウザのアドレスフィールドに、HTTPSプロトコルの場合は「https://」、HTTPプロトコルの場合は「http://」を入力します。

HTTPSポートは[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション>ネットワーク>TCP/IP > 詳細設定)]ページで変更できます。

IEEE 802.1X

IEEE 802.1XはポートベースのNetwork Admission Control用の標準規格であり、有線およびワイヤレスのネットワークデバイスを安全に認証します。IEEE 802.1Xは、EAP (Extensible Authentication Protocol)に基づいています。

IEEE 802.1Xで保護されているネットワークにアクセスするには、デバイスは認証される必要があります。認証を実行するのは認証サーバーで、一般的には、FreeRADIUS、Microsoft Internet Authentication ServerなどのRADIUSサーバーです。

Axisの実装においては、本製品と認証サーバーは、EAP-TLS (Extensible Authentication Protocol - Transport Layer Security)を使用するデジタル証明書で自己証明を行います。証明書は、**認証局 (CA)**が発行します。以下の証明書が必要です。

- 認証サーバーを認証するCA証明書。
- CAが署名した、本製品を認証するクライアント証明書

証明書を作成し、インストールするには、[System Options > Security > Certificates (システムオプション>セキュリティ>証明書)]に移動します。50ページの証明書についてを参照してください。

本製品がIEEE 802.1Xで保護されているネットワークにアクセスするのを許可するには、以下の手順を実行します。

1. [System Options > Security > IEEE 802.1X (システムオプション>セキュリティ>IEEE 802.1X)]に移動します。
2. インストールされている証明リストから[CA証明書]と[クライアント証明書]を選択します。
3. [設定]からEAPOLバージョンを選択して、クライアント証明書に関連付けられているEAPのIDを入力します。
4. チェックボックスにチェックを入れて、IEEE 802.1Xを有効にし、[保存]をクリックします。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

注意

認証を正しく行うには、本製品の日付と時刻をNTPサーバーと同期させる必要があります。51ページの日付と時刻を参照してください。

証明書について

証明書は、ネットワーク上のデバイスの認証に使用されます。一般的なアプリケーションには、暗号化されたWebブラウジング (HTTPS)、IEEE 802.1Xによるネットワーク保護、電子メールなどによる画像や通知メッセージの安全なアップロードなどがあります。本製品では、以下の2種類の証明書を使用できます。

サーバー/クライアント証明書 - 本製品を認証します。サーバー/クライアント証明書は、自己署名証明書と認証局 (CA) 発行の証明書のどちらでも使用できます。自己署名証明書による保護には制限がありますが、認証局発行の証明書を取得するまで利用できます。

CA証明書 - ピア証明書 (たとえば、本製品がIEEE 802.1Xで保護されたネットワークに接続している場合の認証サーバーの証明書など) を認証します。本製品には、CA証明書が何種類かプリインストールされています。

注意

- 製品が工場出荷時の値にリセットされると、プリインストールされたCA証明書以外のすべての証明書が削除されます。
- 製品が工場出荷時の値にリセットされると、プリインストールされたCA証明書以外のすべての証明書が削除されます。

自己署名証明書の作成方法

1. [Setup > System Options > Security > Certificates (設定 > システムオプション > セキュリティ > 証明書)]に移動します。
2. [自己署名証明書の作成]をクリックして、必要な情報を入力します。

CA署名済み証明書を作成し、インストールする方法

1. 自己署名証明書を作成するには、50ページの自己署名証明書の作成方法を参照してください。
2. [Setup > System Options > Security > Certificates (設定 > システムオプション > セキュリティ > 証明書)]に移動します。
3. [証明書の署名要求の作成]をクリックして、必要な情報を入力します。
4. PEM形式の証明書請求をコピーして、希望するCAに送信します。
5. 署名付き証明書を受け取ったら、[証明書のインストール]をクリックして、証明書をアップロードします。

追加のCA証明書をインストールする方法

1. [Setup > System Options > Security > Certificates (設定 > システムオプション > セキュリティ > 証明書)]に移動します。
2. 証明書をアップロードするには、[証明書のインストール]をクリックして、証明書をアップロードします。

音声機能

[Enable audio support] (音声機能を有効にする) を選択すると、クライアントが本製品から音声ストリームを取得できるようになります。音声の設定方法については、26ページの音声設定の変更方法を参照してください。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

注意

このオプションの選択を解除すると、本製品全体で音声が無効になるため、音声の設定済みのイベントやプロファイルでも、音声機能が無効になります。

日付と時刻


本製品の日付と時刻の設定は、[System Options > Date & Time (システムオプション > 日付と時刻)]で行います。

[Current Server Time (現在のサーバー時刻)]には、現在の日付と時刻 (24時間形式) が表示されます。オーバーレイテキストでは、時刻を12時間形式で表示することができます (下記参照)。

日付と時刻の設定を変更するには、[New Server Time (新しいサーバー時刻)] から希望の [Time mode (時刻モード)] を選択します。

- [Synchronize with computer time (コンピューターの時刻に合わせる)] は、コンピューターの時計に合わせて日付と時刻を設定します。このオプションでは、日付と時刻は一度だけ設定され、その後自動的に同期されません。
- [Synchronize with NTP Server (NTPサーバーと同期する)] - NTPサーバーから日付と時刻を取得します。このオプションでは、日付と時刻の設定が継続的に更新されます。NTPの設定の詳細については、54ページのNTP設定を参照してください。
NTPサーバーとしてホスト名を使用している場合は、DNSサーバーの設定を行う必要があります。53ページのDNS設定を参照してください。
- [Set manually (手動で合わせる)] - 日付と時刻を手動で設定できます。

NTPサーバーを使用している場合は、ドロップダウンリストから [Time zone (タイムゾーン)] を選択します。必要に応じて、[Automatically adjust for daylight saving time changes (夏時間の調整を自動的に実行する)] を選択します。

[Date & Time Format Used in Images (映像で使用する日付と時刻の形式)] は、ビデオストリーム上のテキストオーバーレイとして表示される日付と時刻の形式です。既定の形式以外に独自の日付/時刻の形式を作成できます。詳細についてはオンラインヘルプ  の「ファイル名と日付/時刻の書式指定」を参照してください。オーバーレイテキストに日付と時刻を含めるには、[Video & Audio (ビデオと音声)] に移動し、[Include date (日付を表示する)] と [Include time (時刻を表示する)] を選択します。

ネットワーク

TCP/IPの基本設定

本製品は、IPバージョン4 (IPv4)、IPバージョン6 (IPv6) をサポートします。両方のバージョンを同時に有効にすることができますが、少なくとも一方のバージョンが常に有効である必要があります。

IPv4アドレスの設定

本製品は、デフォルトで、IPv4 (IPバージョン4) を使用し、DHCPでIPアドレスを自動的に取得するように設定されています。IPv4の設定は、System Options > Network > TCP/IP > Basic (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 基本設定) で行います。

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用すると、IPアドレスの割り当てをネットワーク管理者が一括管理し、自動化することができます。DHCPを有効にするのは、動的IPアドレス通知を使用する場合か、DHCPでDHCPサーバーを更新できる場合だけにしてください。DHCPを有効にすると、名前 (ホスト名) で本製品にアクセスできるようになります。

DHCPを有効にして本製品にアクセスできなくなった場合は、AXIS IP Utilityを実行し、ネットワークに接続されているAxis製品を検索するか、本製品を工場出荷時の設定にリセット (62ページを参照) してからインストールをやり直す必要があります。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

静的IPアドレスを使用するには、**Use the following IP address (次のIPアドレスを使用する)**を選択し、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトのルーターを指定します。

IPv6アドレスの設定

IPv6 (IPバージョン6) を有効にすると、ネットワークルーターの設定にしたがってIPアドレスが本製品に付与されます。

IPv6を有効にするには、**System Options > Network > TCP/IP > Basic (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 基本設定)**に移動します。IPv6のそれ以外の設定はネットワークルーターで行われます。

ARP/Ping

製品のIPアドレスはARPおよびPingを使用して割り当てることができます。手順については、52ページの*ARP/Ping*を使用してIPアドレスを割り当てるを参照してください。

ARP/Pingサービスはデフォルトで有効になっていますが、製品の起動後2分、または、IPアドレスが割り当てられた直後に自動的に無効になります。ARP/Pingを使用してIPアドレスの再割り当てを行うには、製品を再起動して、ARP/Pingを再び2分間有効にする必要があります。

サービスを無効にするには、**[System Options > Network > TCP/IP > Basic (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 基本設定)]**に移動し、オプション **[Enable ARP/Ping setting of IP address (IPアドレスのARP/Ping設定を有効にする)]**をクリアします。

このサービスが無効になっていても、本製品にPingを送信することは可能です。

ARP/Pingを使用してIPアドレスを割り当てる

本製品のIPアドレスは、ARPおよびPingを使用して割り当てることができます。このコマンドは電源を投入してから2分以内に発行する必要があります。

1. お使いのコンピューターと同じネットワークセグメントで使用されていない静的IPアドレスを用意します。
2. 製品のラベルを参照して、シリアル番号(S/N)を確認します。
3. コマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを入力します。

Linux/Unix での構文

```
arp -s <IPアドレス> <シリアル番号> temp  
ping -s 408 <IPアドレス>
```

Linux/Unix での例

```
arp -s 192.168.0.125 00:40:8c:18:10:00 temp  
ping -s 408 192.168.0.125
```

Windows での構文 (管理者としてコマンドプロンプトを実行する必要があります)

```
arp -s <IPアドレス> <シリアル番号>  
ping -l 408 -t <IPアドレス>
```

Windows のコマンド例 (管理者としてコマンドプロンプトを実行する必要があります)

```
arp -s 192.168.0.125 00-40-8c-18-10-00  
ping -l 408 -t 192.168.0.125
```

4. ネットワークケーブルが接続されていることを確認し、電源を切り、再投入して、本製品を再起動します。
5. 本製品から、Reply from 192.168.0.125:... のような応答があったら、コマンドプロンプトを閉じます。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

6. ブラウザーを開き、場所/アドレスフィールドに、`http://<IPアドレス>`と入力します。

IPアドレスを割り当てる他の方法については、AxisサポートWeb (www.axis.com/techsup) のドキュメント『Assign an IP Address and Access the Video Stream (IPアドレスの割り当てとビデオストリームへのアクセス)』を参照してください。

注意

- Windowsでコマンドプロンプトを開くには、**スタートメニューを開き、実行/検索** フィールドに、`cmd`と入力します。
- Windows 7、Windows 8、Windows VistaでARPコマンドを使用する場合は、コマンドプロンプトアイコンを右クリックして、**管理者として実行**をクリックします。
- Mac OS Xでコマンドプロンプトを開く場合は、**アプリケーション > ユーティリティ**から**ターミナル ユーティリティ**を開きます。

AXIS Video Hosting System (AVHS)

AVHSをAVHSサービスと共に使用すると、インターネットを介して、ライブビデオや録画ビデオにどこからでも簡単、安全にアクセスできます。近くのAVHSサービスプロバイダーを見つけるには、www.axis.com/hostingを参照してください。

AVHSの設定は、**[System Options > Network > TCP/IP > Basic (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 基本設定)]**で行います。AVHSサービスへの接続はデフォルトで有効になっています。無効にするには、**[Enable AVHS (AVHSを有効にする)]**ボックスをオフにします。

[One-click enabled (ワンクリックを有効にする)] - 製品のコントロールボタン(を参照)を約3秒間押し続けて、インターネットを介してAVHSサービスに接続します。登録後は、**[Always (常時)]**が有効になり、本製品はAVHSサービスに接続し続けます。ボタンを押してから24時間以内に本製品を登録しなかった場合、本製品とAVHSサービスの接続が切断されます。

[Always (常時)] - 本製品は、インターネットを介したAVHSサービスへの接続を継続的に試行します。本製品は、いったん登録されると、AVHSサービスに接続し続けます。本製品がすでにインストール済みで、ワンクリックインストールを使用する必要がない場合、このオプションを使用することができます。

AXIS Internet Dynamic DNSサービス

AXIS Internet Dynamic DNSサービスは、ホスト名を割り当てて、本製品へのアクセスを容易にします。詳細については、www.axiscam.netを参照してください。

本製品をAXIS Internet Dynamic DNSサービスに登録するには、**[System Options > Network > TCP/IP > Basic (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 基本設定)]**に移動します。**[Services (サービス)]**でAXIS Internet Dynamic DNSサービスの**[Settings (設定)]**ボタンをクリックします(インターネットへのアクセスが必要)。製品に関してAXIS Internet Dynamic DNSサービスに現在登録されているドメイン名は、いつでも削除することができます。

注意

AXIS Internet Dynamic DNSサービスにはIPv4が必要です。

TCP/IPの高度な設定

DNS設定

DNS (Domain Name Service) は、ホスト名からIPアドレスへの変換を行います。DNS設定は、**[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 詳細設定)]**で行います。

DHCPサーバーから提供されるDNS設定を使用するには、**[Obtain DNS server address via DHCP (DHCPを使用してDNSサーバーアドレスを取得する)]**を選択します。

手動設定を行うには、**[Use the following DNS server address (次のDNSサーバーアドレスを使用する)]**を選択して、次のように指定します。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

ドメイン名 - 本製品が使用するホスト名を検索するドメインを入力します。セミコロンで区切って、複数のドメイン名を指定することができます。ホスト名には、完全修飾ドメイン名の最初の部分を使用します。たとえば、完全修飾ドメイン名がmyserver.mycompany.comの場合、myserverがホスト名です(mycompany.comはドメイン名)。

Primary/Secondary DNS server (プライマリ/セカンダリDNSサーバー) - プライマリDNSサーバーとセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。セカンダリDNSサーバーは、プライマリDNSサーバーが使用できない場合に使用されます。セカンダリDNSサーバーの指定は省略可能です。

NTP設定

NTP (Network Time Protocol) は、ネットワーク上の機器の時刻を同期するために使用します。NTP設定は、**[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 詳細設定)]**で行います。

DHCPサーバーから提供されるNTP設定を使用するには、**[Obtain NTP server address via DHCP (DHCPを使用してNTPサーバーアドレスを取得する)]**を選択します。

手動で設定を行うには、**[Use the following NTP server address (次のNTPサーバーアドレスを使用する)]**を選択して、NTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

ホスト名の設定

IPアドレスの代わりにホスト名を使用して本製品にアクセスすることができます。通常、ホスト名は割り当てられたDNS名と同じです。ホスト名は、**[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 詳細設定)]**で設定します。

IPv4で実行されているDHCPサーバーによって提供されるホスト名を使用するには、**[Obtain host name via IPv4 DHCP (IPv4のDHCPを使用してホスト名を取得)]**を選択します。

ホスト名を手動で設定するには、**[Use the host name (ホスト名を使用する)]**を選択します。

[Enable dynamic DNS updates (DNSの動的更新を有効にする)]を選択すると、本製品のIPアドレスが変わるたびに、ローカルのDNSサーバーが動的に更新されます。詳細については、オンラインヘルプ(?)を参照してください。

リンクローカルIPv4アドレス

[Link-Local IPv4 Address (リンクローカルIPv4アドレス)]は、デフォルトで有効であり、本製品に追加のIPアドレスを割り当てます。この追加のIPアドレスは、ローカルネットワーク上の同じセグメントにある他のホストから本製品にアクセスするために使用されます。本製品は、リンクローカルIPアドレスと、静的IPアドレスまたはDHCPによって提供されるIPアドレスの両方を同時に持つことができます。

この機能は、**[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 詳細設定)]**で無効にできます。

HTTP

本製品で使用するHTTPポートは、**[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 詳細設定)]**で変更できます。デフォルト設定の80に加えて、1024~65535の範囲のポートを使用できます。

HTTPS

本製品で使用するHTTPSポートは、**[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 詳細設定)]**で変更できます。デフォルト設定の443に加えて、1024~65535の範囲のポートを使用できます。

HTTPSを有効にするには、**[System Options > Security > HTTPS (システムオプション > セキュリティ > HTTPS)]**に移動します。詳細については、49ページのHTTPSを参照してください。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

IPv4用NATトラバーサル (ポートマッピング)

プライベートネットワーク (LAN) 上のデバイスは、ネットワークルーターを使用することにより、インターネットへの接続を共有できます。これは、プライベートネットワークから「外部」(つまり、インターネット)へネットワークトラフィックを転送することによって行われます。ほとんどのネットワークルーターが、パブリックネットワーク (インターネット) からプライベートネットワーク (LAN) へのアクセスを阻止するようあらかじめ設定されており、プライベートネットワーク (LAN) のセキュリティは高いものになっています。

NATトラバーサルは、イントラネット (LAN) 上にある本製品を、NATルーターの外側 (WAN) から利用できるようにしたい場合に使用します。NATトラバーサルを正しく設定すると、NATルーターの外部HTTPポートに着信するすべてのHTTPトラフィックが本製品に転送されます。

NATトラバーサルは、**[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 詳細設定)]**で設定します。

注意

- NATトラバーサルを機能させるには、ルーターがNATトラバーサルに対応している必要があります。また、UPnP®にも対応している必要があります。
- この場合、ルーターとは、NATルーター、ネットワークルーター、インターネットゲートウェイ、ブロードバンドルーター、ブロードバンド共有デバイスなどのネットワークルーティングデバイス、またはファイアウォールなどのソフトウェアを指します。

有効化/無効化 - 有効にすると、本製品はUPnPを使用してネットワーク上のNATルーターにポートマッピングを設定します。本製品でUPnPを有効にする必要があります (**[System Options > Network > UPnP (システムオプション > ネットワーク > UPnP)]**を参照してください)。

Use manually selected NAT router (手動で選択したNATルーターを使用する) - このオプションを選択すると、手動でNATルーターを選択して、フィールドにルーターのIPアドレスを入力できます。ルーターを指定しなかった場合、本製品がネットワーク上でNATルーターを自動的に検索します。複数のルーターが検出された場合は、デフォルトのルーターが選択されます。

Alternative HTTP port (代替HTTPポート) - このオプションを選択すると、外部HTTPポートを手動で定義できます。1024~65535の範囲でポートを入力してください。ポートフィールドが空白の場合や、デフォルトの設定 (0) が表示されている場合、NATトラバーサルを有効にしたときにポート番号が自動的に選択されます。

注意

- NATトラバーサルが無効になっている場合でも、代替のHTTPポートを使用したり、アクティブにすることができます。これは、NATルーターがUPnPをサポートしておらず、NATルーターでポート転送を手動設定する必要がある場合に便利です。
- すでに使用されているポートを手動で入力しようとすると、別の使用可能なポートが自動的に選択されます。
- ポートが自動的に選択されると、このフィールドに表示されます。この選択を変更するには、新しいポート番号を入力して、**[Save (保存)]**をクリックします。

FTP

本製品でFTPサーバーを実行することにより、新しいファームウェア、ユーザーアプリケーションなどのアップロードができるようになります。FTPサーバーは、**[System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 詳細設定)]**で無効にできます。

注意

FTPサーバーを無効にしても、本製品からFTPを使用して他の場所やサーバーに画像を送信することができます。

RTSP

本製品でRTSPサーバーが動作している場合は、接続したクライアントからH.264ストリームを開始できます。RTSPポート番号は**System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 高度な設定)**で変更できます。デフォルトでは、ポートは554に設定されています。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

注意

RTSPサーバーが無効になっている場合、H.264ビデオストリームは使用できません。

SOCKS

SOCKSは、ネットワークプロキシプロトコルです。SOCKSサーバーを使用してファイアウォールやプロキシサーバーの外側のネットワークにアクセスするように本製品を設定できます。この機能は、ファイアウォールの内側のローカルネットワーク上の本製品からローカルネットワークの外側(インターネットなど)に通知やアラームを送信したり、アップロードなどを行う必要がある場合に役立ちます。

SOCKSは、**[System Options > Network > SOCKS (システムオプション > ネットワーク > SOCKS)]** で設定します。詳細については、オンラインヘルプ(🔗)を参照してください。

QoS (Quality of Service)

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク上の特定のトラフィックに対して指定されたリソースの一定のレベルを保証します。QoSに対応したネットワークでは、トラフィックに優先順位を付け、アプリケーションで使用できる帯域幅を制御することでネットワークの信頼性が向上します。

QoSの設定は、**System Options > Network > QoS (システムオプション > ネットワーク > QoS)** で行います。本製品では、DSCP (Differentiated Services Codepoint) 値を使用して、さまざまなタイプのトラフィックにマークを付けることができます。

注意

RTSPによるH.264の送信では、ライブ音声のDSCPはライブビデオのDSCPと同じになります。

SNMP

SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用すると、離れた場所からネットワーク装置を管理できます。SNMPコミュニティは、SNMPを使用する装置と管理ステーションのグループです。各グループは、コミュニティ名で識別されます。

ビデオハードウェア用のAXIS Video MIB (Management Information Base) を使用すると、管理者の注意が必要な可能性のあるAxis固有のハードウェア関係の問題を監視することができます。AXIS Video MIBの詳細とMIBファイルのダウンロードについては、www.axis.com/techsupをご覧ください。

本製品でSNMPを有効にして設定するには、**System Options > Network > SNMP (システムオプション > ネットワーク > SNMP)** ページに移動します。

必要なセキュリティのレベルに応じて、使用するSNMPのバージョンを選択します。

本製品では、トラップを使用して、重要なイベントや状態の変化の発生時に管理システムにメッセージを送信することができます。**Enable traps (トラップを有効にする)** にチェックマークを入れ、トラップメッセージの送信先IPアドレスとメッセージを受け取る **Trap community (トラップコミュニティ)** を入力します。

注意

HTTPSを有効にした場合は、SNMP v1とSNMP v2cは無効にしてください。

Traps for SNMP v1/v2 (SNMP v1/v2 トラップ) は、重要なイベントやステータスの変化について、管理システムにメッセージを送るために使用されます。**Enable traps (トラップを有効にする)** にチェックマークを入れ、トラップメッセージの送信先IPアドレスとメッセージを受け取る **Trap community (トラップコミュニティ)** を入力します。

本製品では、以下のトラップを使用することができます。

- ・ コールドスタート
- ・ ウォームスタート
- ・ リンクアップ
- ・ 認証失敗

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

注意

SNMP v1/v2cトラップを有効にすると、すべてのAXIS Video MIBトラップが有効になりますが、特定のトラップをオン/オフすることはできません。

SNMP v3は、暗号化と安全なパスワードを実現します。SNMP v3でトラップを使用するには、SNMP v3管理アプリケーションが必要です。

SNMP v3を使用するには、HTTPSを有効にする必要があります。49ページのHTTPSを参照してください。SNMP v3を有効にするには、Enable SNMP v3 (SNMP v3を有効にする)にチェックマークを入れ、初期ユーザーパスワードを指定してください。

注意

初期ユーザーパスワードは1回しか設定できません。パスワードを忘れた場合は、本製品を工場出荷時の設定にリセットする必要があります。62ページの工場出荷時の設定にリセットする方法を参照してください。

UPnP

本製品は、UPnP®に対応しています。UPnPはデフォルトで有効になっているため、本製品は、このプロトコルをサポートしているオペレーティングシステムとクライアントによって自動的に検出されます。

UPnPは、[System Options > Network > UPnP (システムオプション > ネットワーク > UPnP)]で無効にできます。

RTP/H.264

RTPのポート範囲とマルチキャストの設定は、System Options > Network > RTP (システムオプション > ネットワーク > RTP)で行います。

RTPのポート範囲とはポートの範囲を定めたもので、この範囲の中からビデオポート/音声ポートが自動的に選択されます。マルチキャストストリームには、一定のIPアドレスとポート番号のみを使用してください。

RTSPセッションを開始せずにマルチキャストストリーミングを開始するには、Always Multicast Video (常にビデオをマルチキャスト)、Always Multicast Audio (常に音声マルチキャスト)を選択します。

Bonjour

本製品は、Bonjourに対応しています。Bonjourはデフォルトで有効になっているため、本製品は、このプロトコルをサポートしているオペレーティングシステムとクライアントによって自動的に検出されます。

Bonjourは、[System Options > Network > Bonjour (システムオプション > ネットワーク > Bonjour)]で無効にできます。

ストレージ

SDカードについて

注記

データが破損しないように、SDカードはアンマウントしてから取り外す必要があります。

注意

推奨するSDカードについては、www.axis.comを参照してください

本製品は、SD/SDHC/SDXCカードに対応しています。

以下のSDカードファイルシステムがサポートされています。

- **ext4** — カードの排出または突然の停電によるデータ損失に対する回復力があり、お勧めできるファイルシステムです。Windowsオペレーティングシステムからカードに保存されているデータにアクセスするには、サードパーティ製のext4ドライバーまたはアプリケーションが必要です。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

- vFAT — パソコン用のほとんどのオペレーティングシステムでサポートされています。

SDカードの管理は、[**System Options > Storage (システムオプション > ストレージ)**] ページで行います。[**SD Card (SDカード)**] をクリックして、[**Storage Management (ストレージ管理)**] を開きます。

カードの状態が「failed (失敗)」と表示されている場合は、問題を特定するために [**Check disk (ディスクチェック)**] をクリックして、[**Repair (修復)**] を試みます。このオプションは、ext4形式のSDカードでのみ使用できません。vFAT形式のSDカードの場合は、カードリーダーまたはコンピューターを使用してカードのトラブルシューティングを行ってください。

カードが満杯になるのを避けるため、録画は継続的に削除することをお勧めします。[**General Settings (一般設定)**] の [**Remove recordings older than (次の時間が経過した録画を削除する)**] を選択して、日数または週数を選択します。

カードへの書き込みを停止して、削除されないように録画を保護するには、[**General Settings (一般設定)**] の [**Lock (ロック)**] を選択します。

SDカードのマウントとアンマウントの方法

注記

録画データが破損しないように、SDカードは、取り外す前にアンマウントする必要があります。

SDカードを挿入するか、本製品を起動すると、自動的にSDカードのマウントが行われます。SDカードがアンマウントされていて、SDカードの排出と再挿入が行われていない場合のみ、手動マウントが必要になります。

SDカードをアンマウントするには:

1. Axis製品のWebページを開き、[**Setup > System Options > Storage (設定 > システムオプション > ストレージ)**] に移動します。
2. [**SD Card (SDカード)**] をクリックします。
3. [**Unmount (アンマウント)**] をクリックします。
4. これでSDカードを取り出せるようになります。

SDカードをフォーマットする方法

注記

SDカードをフォーマットすると、カードに保存されている全てのデータと録画が削除されます。

本製品に挿入されたSDカードを自動的にフォーマットするように設定できます。自動フォーマットが有効なときにSDカードが挿入されると、本製品はSDカードがext4ファイルシステムであるかどうかをチェックします。カードが別のファイルシステムである場合、カードは自動的にext4にフォーマットされます。

重要

自動フォーマットが有効な場合は、新しいSDカードまたは空のSDカードのみを使用してください。カードが本製品に挿入されると、カードに保存されているデータは失われます。

自動フォーマットを有効にするには、以下の手順に従います。

1. Axis製品のWebページを開き、[**Setup > System Options > Storage (設定 > システムオプション > ストレージ)**] に移動します。
2. [**SD Card (SDカード)**] をクリックします。
3. [**General Settings (一般設定)**] の [**Autoformat to (オートフォーマット)**] を選択します。
4. [**OK**] をクリックして設定を保存します。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

本製品に挿入されたSDカードを、サポートされるファイルシステムの1つに手動でフォーマットできます。SDカードを手動でフォーマットするには、以下の手順に従ってください。

1. SDカードをSDカードスロットに挿入します。
2. Axis製品のWebページを開き、[Setup > System Options > Storage (設定 > システムオプション > ストレージ)] に移動します。
3. [SD Card (SDカード)] をクリックします。
4. [Format (フォーマット)] をクリックして、目的のファイルシステムを選択します。
5. [OK] をクリックすると、カードのフォーマットが開始されます。

SDカードデータを暗号化する方法

録画された映像に許可されていない個人またはシステムがアクセスするのを防ぐために、SDカードの内容を暗号化できます。暗号化は、アンマウントされたSDカードでのみ有効化できます。暗号化を有効にした後、SDカードをフォーマットして、暗号化されていないデータがカードに残っていないようにします。また、カードを使用するには、まずマウントする必要があります。

注意

オートフォーマットが有効な場合、暗号化が有効にされると、カードは自動でフォーマットおよびマウントされます。その場合、下記のフォーマットおよびマウントの手順は飛ばしてください。

SDカードのコンテンツを暗号化するには

1. Axis製品のWebページを開き、[Setup > System Options > Storage (設定 > システムオプション > ストレージ)] にアクセスします。
2. [SD Card (SDカード)] をクリックして、[Storage Management (ストレージ管理)] を開きます。
3. SDカードがマウントされている場合、[Unmount (アンマウント)] をクリックしてカードをアンマウントします。
4. [Encrypt (暗号化)] をクリックします。
5. [Enable SD card encryption (SDカードの暗号化を有効にする)] を選択して、パスワードを入力します。
6. ストレージ管理で、[Format (フォーマット)] をクリックして、SDカードをフォーマットします。
7. [Mount (マウント)] をクリックして、SDカードをマウントします。

カードを再フォーマットせずにパスワードを変更することができます。[Storage Management (ストレージ管理)] を開き、[Encrypt (暗号化)] をクリックして、古いパスワードと新しいパスワードを入力します。パスワードは、カードがマウントされている場合にのみ変更できます。パスワードを変更しても、継続中の録画には影響しません。

暗号化を無効にするには、SDカードをアンマウントして、上記の手順を実行します。ただし、[SDカードの暗号化を有効にする] オプションを解除します。暗号化が無効にされると、カードはフォーマットおよびマウントされる必要があります。

ネットワーク共有

ネットワーク共有により、ネットワーク接続ストレージ (NAS) などのネットワークストレージを追加することができます。NASは、ネットワークに接続されている本製品からの録画とデータ専用にしてください。推奨NASデバイスについては、www.axis.com/products/axis-companion/support-and-documentationを参照してください。

注意

推奨するNASについては、www.axis.comを参照してください

ネットワーク共有を追加するには:

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

1. [System Options > Storage (システムオプション > ストレージ)] に移動します。
2. [Network Share (ネットワーク共有)] をクリックします。
3. [Host (ホスト)] フィールドにホストサーバーのIPアドレス、DNS、またはBonjour名を入力します。
4. [Share (共有)] フィールドに共有名を入力します。サブフォルダーは使用できません。
5. 必要に応じて、[The share requires login (共有にはログインが必要)] を選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。
6. [Connect (接続)] をクリックします。

共有ストレージの本製品のフォルダーからすべての録画とデータを消去するには、[Storage Tools (ストレージツール)] の [Clear (消去)] をクリックします。

共有ストレージが満杯になるのを避けるため、録画は継続的に削除することをお勧めします。[General Settings (一般設定)] の [Remove recordings older than (次の時間が経過した録画を削除する)] を選択して、日数または週数を選択します。

共有ストレージへの書き込みを停止して、削除されないように録画を保護するには、[General Settings (一般設定)] の [Lock (ロック)] を選択します。

ポートとデバイス

I/O ポート

本製品は、外部装置との接続に使用する、設定可能な入出力ポートを4つ備えています。外部デバイスとの接続方法については、74ページのコネクターを参照してください。

I/Oポートを設定するには、[System Options (システムオプション)] > [Ports & Devices (ポートとデバイス)] > [I/O Ports (I/Oポート)] に移動します。各ポートは入力用または出力用として機能します。

- 開路としての入力-回路がREX装置などによって接地されると、入力はアクティブになります。標準状態とポートの現在の状態が同じである間は、入力は非アクティブのままです。
- 接地回路としての入力-回路がモニターなどによって開かれると、入力はアクティブになります。
- 開路としての出力-現在の状態が開路である場合、出力ポートは非導電状態です。出力ポートの現在の状態は、アクションルールなどで変更できます。
- 接地回路としての出力-現在の状態が接地回路である場合、出力ポートは導電状態です。

ポートの状態

[System Options > Ports & Devices > Port Status (システムオプション > ポートとデバイス > ポートの状態)] ページのリストには、本製品の入出力ポートの状態表示されます。

保守

本製品は保守機能を備えています。これらの保守機能は、[System Options > Maintenance (システムオプション > 保守)] で利用できます。

本製品が想定どおりに動作しない場合は、[再起動] をクリックして、本製品を正しく再起動します。この場合、現在の設定には影響がありません。

注意

再起動により、サーバーレポートのすべてのエントリが消去されます。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

[再起動]をクリックすると、設定の大半が工場出荷時の値にリセットされます。以下の設定はリセットされません。

- ・ ブートプロトコル (DHCPまたは静的)
- ・ 静的IPアドレス
- ・ デフォルトルーター
- ・ サブネットマスク
- ・ システム時刻
- ・ IEEE 802.1X設定
- ・ アップロードされたアプリケーションは保持されますが、再起動する必要があります。

[デフォルト]をクリックすると、IPアドレスなど、すべての設定が工場出荷時の値にリセットされます。このボタンは慎重に使用する必要があります。本製品は、コントロールボタンを使用してリセットすることもできます。62ページの工場出荷時の設定にリセットする方法を参照してください。

本製品の確認またはステータスLEDのテストを行うには、[確認]の[LEDの点滅]をクリックし、点滅時間を時間、分、秒で指定します。この機能は、同じ場所に設置されている機器の中から本製品を識別するのに便利です。

ファームウェアのアップグレードについては、63ページのファームウェアのアップグレード方法を参照してください。

サポート

サポートの概要

[System Options > Support > Support Overview (システムオプション > サポート > サポートの概要)]ページには、トラブルシューティングに関する情報や技術支援が必要な場合の連絡先情報があります。

63ページの、トラブルシューティングも参照してください。

システムの概要

本製品の状態および設定の概要を確認するには、[System Options > Support > System Overview (システムオプション > サポート > システムの概要)]に移動します。ここでは、ファームウェアバージョン、IPアドレス、ネットワークとセキュリティの設定、イベントの設定、画像の設定、最近のログの内容などの情報が表示されます。

ログとレポート

[System Options > Support > Logs & Reports (システムオプション > サポート > ログとレポート)]ページでは、システム分析やトラブルシューティングに役立つログとレポートが生成されます。Axisの技術サポートに連絡する場合は、質問と共にサーバーレポートを提供してください。

システムログ - システムイベントに関する情報を表示します。

アクセスログ - 失敗したカメラへのアクセスがすべて表示されます。本製品への接続をすべて表示するように設定することもできます (下記参照)。

View Server Report (サーバーレポートを表示) - 本製品のステータスに関する情報をポップアップ表示します。アクセスログは自動的にサーバーレポートに含まれます。

Download Server Report (サーバーレポートをダウンロード) - 完全なサーバーレポートのUTF-8形式のテキストファイルを取めた.zipファイルが生成されます。ライブビューのスナップショットを含めるには、[Include snapshot from Live View (ライブビューからスナップショットを撮影してレポートに含める)]を選択します。Axisのサポートに連絡する際には、必ず、.zipファイルを添えて問い合わせを行ってください。

AXIS F41 Main Unit

システムオプションについて

パラメーターリスト - 本製品のパラメーターと現在の設定を表示します。トラブルシューティングを行う場合やAxisのサポートに問い合わせを行う場合に役に立ちます。

接続リスト - メディアストリームに現在アクセスしているすべてのクライアントを表示します。

クラッシュレポート - デバッグ情報を含むアーカイブを生成します。レポートの生成には数分かかります。

詳細設定

スクリプト処理

上級ユーザーは、スクリプト処理を使用して、スクリプトをカスタマイズし、使用することができます。

注記

使い方を誤ると、予期せぬ動作が発生したり、本製品にアクセスできなくなる場合があります。

Axisでは、どのような結果になるかを理解するまで、この機能を使用しないことを強くお勧めします。Axisは、スクリプトのカスタマイズによって発生した問題についてはサポートを行いませんのでご注意ください。

スクリプトエディターを開くには、**[System Options > Advanced > Scripting (システムオプション > 詳細設定 > スクリプト処理)]**に移動します。スクリプトが問題を引き起こす場合は、本製品を工場出荷時の設定にリセットしてください(62ページ参照)。

詳細については、www.axis.com/developerを参照してください。

ファイルのアップロード

ファイル(Webページや画像)を本製品にアップロードし、カスタム設定として使用することができます。ファイルをアップロードするには、**[System Options > Advanced > File Upload (システムオプション > 詳細設定 > ファイルのアップロード)]**に移動します。

アップロードしたファイルには、<http://<IPアドレス>/local/<ユーザー>/<ファイル名>>を介してアクセスします。<ユーザー>には、アップロードしたファイル用に選択したユーザーグループ(監視者、オペレータ、管理者)を指定します。

プレーン設定

[プレーン設定]は、本製品の設定の経験のある上級ユーザー向けのページです。ほとんどのパラメーターは、このページから設定、変更することができます。

[Plain Config (プレーン設定)]を開くには、**[System Options > Advanced > Plain Config (システムオプション > 詳細設定 > プレーン設定)]**に移動します。Axisサポートでは、この機能に関するサポートを提供していません。

工場出荷時の設定にリセットする方法

AXIS F41 Main Unit

トラブルシューティング

トラブルシューティング

ファームウェアを確認する

ファームウェアは、ネットワークデバイスの機能を決定するソフトウェアです。問題のトラブルシューティングを行う際には、まず、現在のファームウェアバージョンを確認してください。最新バージョンには、特定の問題の修正が含まれていることがあります。本製品の現在のファームウェアバージョンは、**Setup > Basic Setup (設定 > 基本設定)** および **Setup > About (設定 > 製品情報)** に表示されます。

ファームウェアのアップグレード方法

重要

- ユーザーが正しくアップグレードしなかったことに起因する修理については、販売店は費用を請求する権利を保有します。
- あらかじめ設定済みの設定とカスタム設定は、(その機能が新しいファームウェアで利用できる場合)、ファームウェアのアップグレード時に保存されます。ただし、この動作をAxisが保証しているわけではありません。

注意

- アップグレードのプロセスが完了すると、本製品は自動的に再起動します。本製品のアップグレード後に手で再起動する場合、アップグレードが失敗した疑いがある場合でも、10分間待ってください。
- 最新のファームウェアをダウンロードして製品をアップグレードすると、製品に最新機能が追加されます。ファームウェアを更新する前に、ファームウェアとともに提供されるアップグレード手順とリリースノートを必ずお読みください。

1. 最新のファームウェアファイルをコンピューターにダウンロードします。ファームウェアファイルはAxisサポートページ (www.axis.com/support) から無料で入手できます。
2. 製品のWebページで、**[Setup > System Options > Maintenance (設定 > システムオプション > メンテナンス)]** に移動します。
3. **[サーバーのアップグレード]** で、**[参照]** をクリックして、コンピューター上のファイルを指定します。
4. **[アップグレード]** をクリックします。
5. 本製品がアップグレードされて再起動するまで、約10分間待ちます。そのあと、製品にアクセスします。
6. **[Setup > Basic Setup (設定 > 基本設定)]** に移動し、ファームウェアのアップグレードを確認します。

アップグレードを行う対象が複数の場合は、AXIS Camera Managementを使用できます。詳細については、AxisのWebサイト (www.axis.com) をご覧ください。

現象、考えられる原因、対策

ファームウェアのアップグレードで問題が発生する

| | |
|-------------------|--|
| ファームウェアのアップグレード失敗 | ファームウェアのアップグレードに失敗した場合、製品は以前のファームウェアを再度読み込みます。ファームウェアのファイルを確認して、もう一度試してください。 |
|-------------------|--|

IPアドレスの設定で問題が発生する

| | |
|-----------------|---|
| ARP/Pingを使用している | 再インストールを行います。本製品の電源投入後、2分以内にIPアドレスを設定する必要があります。Pingの長さは408に設定します。手順については、52ページの ARP/Pingを使用してIPアドレスを割り当てる を参照してください。 |
|-----------------|---|

AXIS F41 Main Unit

トラブルシューティング

| | |
|-------------------------------------|---|
| 本製品が別のサブネット上にある | 本製品のIPアドレスと本製品にアクセスするコンピューターのIPアドレスが異なるサブネットにある場合は、IPアドレスを設定できません。ネットワーク管理者に連絡して、適切なIPアドレスを取得してください。 |
| IPアドレスが別のデバイスで使用されている | 本製品をネットワークから切断します。Pingコマンドを実行します (コマンドウィンドウまたはDOSウィンドウで、pingコマンドと本装置のIPアドレスを入力します)。 <ul style="list-style-type: none">もし、「Reply from <本製品のIPアドレス>: bytes=32; time=10...」という応答を受取った場合は、ネットワーク上の別のデバイスでIPアドレスがすでに使用中の可能性があります。ネットワーク管理者から新しいIPアドレスを取得し、本製品を再度インストールしてください。もし、「Request timed out」が表示された場合は、本製品でそのIPアドレスを使用できます。この場合は、すべてのケーブル配線をチェックし、本製品を再度インストールしてください。 |
| 同じサブネット上の別のデバイスとIPアドレスが競合している可能性がある | DHCPサーバーによって動的アドレスが設定される前は、本製品の静的IPアドレスが使用されます。つまり、デフォルトの静的IPアドレスが別のデバイスでも使用されていると、本製品のアクセスに問題が発生する可能性があります。 |

ブラウザから本製品にアクセスできない

| | |
|------------------------|--|
| ログインできない | HTTPSが有効な場合は、正しいプロトコル (HTTPまたはHTTPS) を使用してログインしてください。ブラウザのアドレスフィールドに、手動で「http」または「https」と入力する必要がある場合があります。 rootユーザーのパスワードを忘れた場合は、製品を工場出荷時の設定にリセットする必要があります。62ページの工場出荷時の設定にリセットする方法を参照してください。 |
| DHCPによってIPアドレスが変更された | DHCPサーバーから取得したIPアドレスは動的なアドレスであり、変更されることがあります。IPアドレスが変更された場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Camera Managementを使用して本製品のネットワーク上の場所を特定してください。本製品のモデルまたはシリアル番号、あるいはDNS名 (設定されている場合) を使用して製品を識別します。 必要であれば、静的IPアドレスを手動で入力することもできます。手順については、Axisのサポートホームページ (www.axis.com/techsup) にある『IPアドレスの割り当てとビデオストリームへのアクセス』のドキュメントを参照してください。 |
| IEEE 802.1X使用時の証明書のエラー | 認証を正しく行うには、本製品の日付と時刻をNTPサーバーと同期させる必要があります。51ページの日付と時刻を参照してください。 |

本製品にローカルにアクセスできるが、外部からアクセスできない

| | |
|---------------|--|
| ルーターの設定 | 本製品への着信データトラフィックを許可するようにルーターを設定するには、NATトラバーサル機能を有効にします。この機能を有効にすると、本製品へのアクセスを許可するようルーターが自動設定されます。55ページのIPv4用NATトラバーサル (ポートマッピング) を参照してください。ルーターはUPnP™に対応している必要があります。 |
| ファイアウォールによる保護 | インターネットのファイアウォールについてシステム管理者に確認してください。 |
| デフォルトルーターが必要 | ルーターを設定する必要があるかどうか、[System Options > Network > TCP/IP > Basic (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 基本設定)] で確認してください。 |

AXIS F41 Main Unit

トラブルシューティング

H.264 ストリームの問題

| | |
|--|--|
| AXIS Media Controlの問題 (<i>Internet Explorer</i> のみ) | Internet Explorerでビデオ映像の更新を有効にするには、ブラウザがActiveXコントロールを許可するように設定します。お使いのコンピューターにAXIS Media Controlがインストールされていることも確認してください。 |
| H.264の画像がクライアントで表示されない | AMCコントロールパネル ([ストリーミング] タブ) で、該当するH.264接続方法と適切なインターフェースが有効になっていることを確認します。15ページの <i>AXIS Media Control (AMC)</i> についてを参照してください。 AMCのコントロールパネルで、[H.264] タブを選択し、 [Set to default H.264 decoder (デフォルトのH.264デコーダーに設定)] ボタンをクリックします。 [System Options > Network > TCP/IP > Advanced (システムオプション > ネットワーク > TCP/IP > 高度な設定)] でRTSPが有効であることを確認します。 |
| ローカルクライアントしかマルチキャストH.264にアクセスできない | ルーターがマルチキャストをサポートしているかどうか、クライアントと本製品間のルーター設定を行う必要があるかどうかを確認してください。TTL (Time To Live) 値を上げる必要がある場合もあります。 |
| H.264のマルチキャスト画像がクライアントで表示されない | Axis製品で使用されたマルチキャストアドレスが有効かどうか、ネットワーク管理者に確認してください。 ファイアウォールが表示を妨げていないかどうか、ネットワーク管理者に確認してください。 |
| H.264画像のレンダリング品質が悪い | グラフィックカードで最新のデバイスドライバーが使用されていることを確認してください。最新のドライバーは、通常、メーカーのWebサイトからダウンロードできます。 |
| 彩度がH.264とMotion JPEGで異なる | グラフィックアダプターの設定を変更します。詳細については、グラフィックカードのマニュアルを参照してください。 |
| フレームレートが予想したレートより低い | 76ページのパフォーマンスに関する一般的な検討事項を参照してください。 クライアントコンピュータで実行されているアプリケーションの数を減らします。 同時監視者の数を制限します。 使用可能な帯域幅が十分かどうか、ネットワーク管理者に確認します。 AMCコントロールパネル (H.264 タブ) で、ビデオ処理が [キーフレームのみデコード] に設定されていないかを確認します。 データシートを取り除きます。 画像の解像度を下げます。 フレームレートを優先する [キャプチャーモード] に設定します。キャプチャーモードに変更してフレームレートを優先すると、使用する製品や利用可能なキャプチャーモードによって、最大解像度が低下することがあります。 本製品の周波数 (60/50 Hz) によって、最大フレーム/秒は異なります。 |

ステータスインジケータとネットワークインジケータのLEDが赤く、素早く点滅する

| | |
|-----------|--------------------|
| ハードウェアの故障 | Axisの販売店に連絡してください。 |
|-----------|--------------------|

製品が起動しない

| | |
|----------|---|
| 製品が起動しない | 製品が起動しない場合、ネットワークケーブルに接続されていることを確認します。次に、電源ケーブルをミッドスパンに再度挿入します。 |
|----------|---|

AXIS F41 Main Unit

トラブルシューティング

ビデオ/画像の問題

画像に満足できない の [Setup > Video & Audio > Video Stream (設定 > ビデオと音声 > ビデオストリーム)] およびの [Setup > Video & Audio > Camera Settings (設定 > ビデオと音声 > カメラの設定)] でビデオストリームとカメラの設定を確認します。

音が出ない

セットアップが正しくない コンピューターのサウンドカードをチェックします。ミュートボタンが押されていないかを確認し、音量設定が正しいかどうかを確認してください。

[Enable audio support (音声機能を有効にする)] が [Setup > System Options > Security > Audio Support (設定 > システムオプション > セキュリティ > 音声機能)] で選択されていることを確認します。

[Setup > Video & Audio > Audio Settings (設定 > ビデオと音声 > 音声の設定)] で、正しい [Audio Input (音声入力)] ソースが選択されているかどうかを確認します。

音質が悪い

途切れる リスナーと閲覧者の数を減らします。画像の解像度と圧縮率を下げます。

H.264の使用中に映像と音声がずれる 本製品の日付と時刻の設定をNTPサーバーと同期させます。 [Setup > System Options > Date & Time (設定 > システムオプション > 日付と時刻)] に移動します。

音がひずむ [Setup > Video & Audio > Audio Settings (設定 > ビデオと音声 > 音声の設定)] で、正しい [Audio Input (音声入力)] ソースが選択されているかどうかを確認します。

フィードバックループ 全二重モードではフィードバックループが発生することがあります。マイクやスピーカーを動かすか、半二重モードを使用してください。

ストレージ、ディスクの管理の問題

ストレージの中断 ストレージデバイスの使用不能、取り外し、ロックまたはその他の読み取り/書き込み問題が発生するとストレージ中断アラームが送信されます。問題の原因を特定するため、[System Options > Support > Logs & Reports (システムオプション > サポート > ログとレポート)] で [System Log (システムログ)] を確認します。問題の内容によっては、ストレージデバイスを再度マウントする必要がある場合があります。

ストレージ中断アラームの設定方法については、39ページの、イベントを参照してください。

ビデオを録画できない SDカードが書き込み禁止(読み取り専用)になっていないかどうかを確認してください。

SDカードをマウントできない SDカードを再フォーマット後、[マウント] をクリックします。

注記

カードをフォーマットすると、録画をはじめとするすべてのコンテンツがSDカードから削除されます。

AXIS F41 Main Unit

仕様

仕様

最新バージョンの製品のデータシートについては、axis.comで本製品のページを開いて「Support & Documentation (サポートとドキュメント)」へお進みください。

モデル AXIS F41: 1チャンネル、HDTV 1080p、WDR Forensic Capture

ビデオ

ビデオ圧縮 H.264 (MPEG-4 Part 10/AVC) ベースライン、メイン、ハイプロファイル
Motion JPEG

解像度 1920 x 1080 (1080p) ~ 160 x 90^a
1280 x 720 (720p) ~ 160 x 90

フレームレート H.264/Motion JPEG^b: 1080p (WDRなし) では50/60 fps (50/60 Hz)、WUXGA (WDRなし) と1080p (WDRあり) では25/30 fps (50/60 Hz)

ビデオストリーミング 個別設定可能なH.264 (ベースライン、メイン、ハイプロファイル)、Motion JPEGマルチストリーム
フレームレートと帯域幅が制御可能
VBR/MBR H.264

画像設定 圧縮レベル、カラーレベル、輝度、シャープネス、コントラスト、ホワイトバランス、露出値、露出コントロール、露出ゾーン、ローカルコントラスト、回転、Corridor Format、オーバーレイ (テキスト/画像)、プライバシーマスク、ミラーリング
ワイドダイナミックレンジ-フォレンジックキャプチャー機能: 最大120 dB (撮影場所に応じて値は異なります)^b

音声

音声ストリーミング 双方向

音声圧縮 AAC-LC 8/16 kHz 8~64kbit/秒、G.711 PCM 8 kHz 64kbit/秒、G.726 ADPCM 8 kHz 32kbit/秒または24kbit/秒、ビットレートを設定可能
AAC-LC 8/16/32 kHz、8~128キロビット/秒

音声入出力 外部マイクロフォン入力またはライン入力、ライン出力

ネットワーク

セキュリティ パスワード保護、IPアドレスフィルタリング、HTTPS^c暗号化、IEEE 802.1X^cネットワークアクセスコントロール、ダイジェスト認証、ユーザーアクセスログ、証明書集中管理

対応プロトコル IPv4/v6、HTTP、HTTPS^c、SSL/TLS^c、QoS Layer 3 DiffServ、FTP、CIFS/SMB、SMTP、Bonjour、UPnP[™]、SNMPv1/v2c/v3 (MIB-II)、DNS、DynDNS、NTP、RTSP、RTP、TCP、UDP、IGMP、RTCP、ICMP、DHCP、ARP、SOCKS、SSH

システムインテグレーション

アプリケーション プログラミングインターフェース VAPIX[®]、AXIS Camera Application Platformを含む、ソフトウェアインテグレーションのためのオープンAPI。仕様はwww.axis.comで入手可能
ワンクリックで接続できるAXIS Video Hosting System (AVHS)
ONVIF Profile S

インテリジェントビデオ AXIS Camera Application Platform
ビデオ動体検知、いたずら警告、音声検知

イベントトリガー インテリジェントビデオ、外部入力
エッジストレージイベント

イベントアクション ファイルのアップロード: FTP/HTTP/HTTPS/ネットワーク共有、イベント通知: 電子メール/HTTP/HTTPS/TCPを利用、外部出力の駆動、ビデオバッファ (プリ/ポストアラーム)
エッジストレージへの映像と音声の保存、音声クリップの再生、外部出力の駆動

設置支援機能 ピクセルカウンター

データストリーミング イベントデータ

一般

ケーシング アルミニウム

AXIS F41 Main Unit

仕様

| | |
|-------------|---|
| メモリー | RAM 512 MB、フラッシュ256 MB |
| 電源 | Power over Ethernet IEEE 802.3af/802.3at Type 1 Class 3 最大7.7 W、8~28 V DC、最大7.8 W |
| コネクタ | 10BASE-T/100BASE-TX PoE用RJ45メスコネクタ、センサーユニット接続用RJ12コネクタ、設定可能な4つの入出力用6ピンターミナルブロック (12 V DC出力、最大負荷50 mA)、3.5 mmマイク/ライン入力、3.5 mmライン出力、RS232 5ピンターミナルブロック、8~28 V DC入力用2ピンターミナルブロック |
| ストレージ | 録画専用のNAS (Network Attached Storage) への録画に対応。推奨するSDカードとNASについては、 www.axis.com を参照してください SD/SDHC/SDXCメモリーカードスロット×1、64 GBまでの容量に対応 (メモリーカードは非付属品) |
| 動作条件 | -30 ° C~60 ° C 湿度: 10~85% RH (結露不可) |
| 保管条件 | -40 ° C~65 ° C |
| 認証・認可 | ECE R10 rev.04、EN 50121-4、EN 50581、IEC/EN/UL 60950-1、IEC 60068-2-1、IEC 60068-2-2、IEC 60068-2-14、IEC 60068-2-30、IEC 60068-2-60、IEC 60068-2-78、IEC 60529 IP4X、IEC 60721-3-5 5M3 (振動、衝撃)、IEC 62236-4、EN 55024、EN 61000-6-1、EN 61000-6-2、EN 61000-3-2、EN 61000-3-3 EN 55022 Class B、FCC Part 15 Subpart B Class B、ICES-003 Class B、VCCI Class B、C-tick AS/NZS CISPR 22 Class B、KCC KN22 Class B、KN24 |
| 外形寸法 | 51 x 121 x 121 mm |
| 重量 | 532 g |
| オプションアクセサリ | AXIS F8001 Surface Mount with Strain Relief、AXIS F8002 DIN Rail Clip、AXIS T8120 15 Wミッドスパン (1ポート)、AXIS T83マイクロフォン |
| ビデオ管理ソフトウェア | AXIS Camera Companion、AXIS Camera Station、Axisのアプリケーション開発パートナーが提供するビデオ管理ソフトウェア。 www.axis.com/techsup/software から入手可能 |
| 保証 | Axisの3年保証およびAxis延長保証オプション、 www.axis.com/warranty を参照 |

- a. 情報はセンサーユニットによって変わる場合があります
b. 情報はセンサーユニットによって変わる場合があります
c. この製品には、OpenSSL Toolkitで使用するためにOpenSSL Project (www.openssl.org/) によって開発されたソフトウェアとEric Young (ey@cryptsoft.com) によって開発された暗号化ソフトウェアが含まれています。

AXIS F1004 Sensor Unitの技術仕様

| | |
|--------------------|--|
| カメラ | |
| 撮像素子 | 1/4" (有効) プログレッシブスキャンRGB CMOS |
| レンズ | 固定アイリス 2.1 mm、F2.2 水平画角: 102° 垂直画角: 56° |
| 解像度 | 最大1280×720 |
| ワイドダイナミックレンジ (WDR) | WDR |
| 最低照度 | カラー: 0.4ルクス |
| シャッター速度 | 1/24500秒~1/6秒 |
| アングル調整 | パン: ±180° チルト: 0° ~90° 回転±90° |
| フレームレート | 最大25/30フレーム/秒 (50/60 Hz) |
| 一般 | |
| ケーシング | プラスチック |
| 動作条件 | -20 ° C~50 ° C 湿度: 10~85% RH (結露不可) |

AXIS F41 Main Unit

仕様

| | |
|------------|---|
| 保管条件 | -40 ° C ~ 65 ° C |
| 認証・認可 | IEC/EN/UL 60950-1、IEC 60068-2-1、IEC 60068-2-2、IEC 60068-2-6、IEC 60068-2-14、IEC 60068-2-27、IEC 60068-2-78、EN 55024、EN 61000-6-1、EN 61000-6-2、EN 61000-3-2、EN 61000-3-3、EN 50581、EN 55022 Class B、FCC Part 15 Subpart B Class B、ICES-003 Class B、VCCI Class B、RCM AS/NZS CISPR 22 Class B、KCC KN22 Class B、KN24 |
| 外形寸法 | 60×60×89 mm |
| 重量 | 55 g |
| 必要なハードウェア | AXIS Fメインユニット |
| 付属品 | インストールガイド |
| オプションアクセサリ | AXIS F7315ケーブル (白) 15 m |
| 保証 | Axis 3年保証およびAxis延長保証オプション (www.axis.com/warranty を参照) |

AXIS F1005-E Sensor Unit

| | |
|-----|---|
| モデル | AXIS F1005-E (ケーブル長3 m): 標準タイプ、IP66/IP67準拠 AXIS F1005-E (ケーブル長12 m): 標準タイプ、IP66/IP67準拠 |
|-----|---|

カメラ

| | |
|--------------------|---|
| 撮像素子 | 1/2.8" (有効) プログレッシブスキャンRGB CMOS |
| レンズ | 固定アイリス 2.8 mm、F2.0 AXIS F34/F41/F44 に接続時 (1080p): 水平画角: 113° 垂直画角: 62° AXIS F34/F44 に接続時 (720p): 水平画角: 73° 垂直画角: 41° |
| 解像度 | 最大1920x1200/1080 |
| ワイドダイナミックレンジ (WDR) | WDR Forensic Capture AXIS F41 に接続時: 1080p、25/30フレーム/秒 (50/60 Hz) AXIS F44 に接続時: 720p、12.5/15フレーム/秒 (50/60 Hz) |
| 最低照度 | カラー: 0.3ルクス |
| シャッター速度 | AXIS F34/F44 に接続時: HDTV 720p 25/30フレーム/秒: 1/28000秒~2秒 1080p 12.5/15フレーム/秒: 1/22500秒~2秒 AXIS F41 に接続時: HDTV 1080p 25/30/50/60フレーム/秒: 1/143000秒~2秒 WUXGA (1920×1200) 25/30フレーム/秒: 1/143000秒~2秒 |
| フレームレート | 最大50/60フレーム/秒 (50/60 Hz) |

一般

| | |
|-------|--|
| ケーシング | IP66、IP67準拠、アルミニウム |
| 動作条件 | -30 ° C ~ 55 ° C 湿度10~100% RH (結露可) |
| 保管条件 | -40 ° C ~ 65 ° C |
| 認証・認可 | ECE R10 rev.04、EN 50121-4、IEC/EN/UL 60950-1、IEC 60068-2-1、IEC 60068-2-2、IEC 60068-2-14、IEC 60068-2-30、IEC 60068-2-78、IEC 60529 IP4X、IEC 62236-4、EN 55022 Class B、EN 55024、EN 61000-3-2、EN 61000-3-3、EN 61000-6-1、EN 61000-6-2、FCC Part 15 Subpart B Class B、ICES-003 Class B、VCCI Class B、C-tick AS/NZS CISPR 22 Class B、KCC KN22 Class B、KN24、EN 50581、IEC 60068-2-60、IEC 60529 IP66/IP67、IEC 60721-3-5 5M3 (振動、衝撃)、IEC/EN/UL 60950-22、NEMA 250 Type 4X |
| 外形寸法 | 62 mm直径30 mm |
| 重量 | 3 mケーブル: 116 g 12 mケーブル: 366 g |

AXIS F41 Main Unit

仕様

必要なハードウェア AXIS F34/F41/F44 Main Unit

付属品 インストールガイド
AXIS F8201 Vari-angle Mounting Bracket

オプションアクセサリ AXIS F8203 Fixed Mount Bracket
AXIS F8204 Mounting Band
AXIS F8205 Bullet Accessory
AXIS F8212 Trim Ring
AXIS F8401 Clear Lens Protector

保証 Axis 3年保証については、www.axis.com/warrantyを参照してください

AXIS F1015 Sensor Unit

モデル **AXIS F1015 (ケーブル長3 m):** バリフォーカル
AXIS F1015 (ケーブル長12 m): バリフォーカル

カメラ

撮像素子 1/2.8" (有効) プログレッシブスキャンRGB CMOS

レンズ 固定アイリス
3~6 mm、F2.0
AXIS F34/F41/F44 に接続時 (1080p):
水平画角: 108° ~53°
垂直画角: 57.5° ~30°
AXIS F34/F44 に接続時 (720p):
水平画角: 65° ~35°
垂直画角: 36° ~20°

解像度 最大1920x1200/1080

ワイドダイナミックレンジ (WDR) WDR Forensic Capture
AXIS F41 に接続時: 1080p、25/30フレーム/秒 (50/60 Hz)
AXIS F44 に接続時: 720p、12.5/15フレーム/秒 (50/60 Hz)

最低照度 カラー: 0.3ルクス

シャッター速度 **AXIS F34/F44 に接続時:**
HDTV 720p 25/30フレーム/秒: 1/28000秒~2秒
1080p 12.5/15フレーム/秒: 1/22500秒~2秒
AXIS F41 に接続時:
HDTV 1080p 25/30/50/60フレーム/秒: 1/143000秒~2秒
WUXGA (1920x1200) 25/30フレーム/秒: 1/143000秒~2秒

フレームレート 最大50/60フレーム/秒 (50/60 Hz)

一般

ケーシング アルミニウム

動作条件 -30 °C~55 °C
湿度10~85% RH (結露不可)

保管条件 -40 °C~65 °C

認証・認可 ECE R10 rev.04、EN 50121-4、IEC/EN/UL 60950-1、IEC 60068-2-1、IEC 60068-2-2、IEC 60068-2-14、IEC 60068-2-30、IEC 60068-2-78、IEC 60529 IP4X、IEC 62236-4、EN 55022 Class B、EN 55024、EN 61000-3-2、EN 61000-3-3、EN 61000-6-1、EN 61000-6-2、FCC Part 15 Subpart B Class B、ICES-003 Class B、VCCI Class B、C-tick AS/NZS CISPR 22 Class B、KCC KN22 Class B、KN24、EN 50581、IEC 60068-2-6、IEC 60068-2-27

外形寸法 69 mm直径30 mm

重量 **3 mケーブル:** 120 g
12 mケーブル: 370 g

必要なハードウェア AXIS F34/F41/F44 Main Unit

付属品 インストールガイド
AXIS F8201 Vari-angle Mounting Bracket

オプションアクセサリ AXIS F8203 Fixed Mount Bracket
AXIS F8215 Varifocal Bullet Accessory

AXIS F41 Main Unit

仕様

保証 Axis 3年保証については、www.axis.com/warrantyを参照してください

AXIS F1025 Sensor Unit

モデル AXIS F1025 (ケーブル長3 m): ピンホール
AXIS F1025 (ケーブル長12 m): ピンホール

カメラ

撮像素子 1/2.8" (有効) プログレッシブスキャンRGB CMOS

レンズ 固定アイリス
3.7 mm、F2.5
AXIS F34/F41/F44 に接続時 (1080p):
水平画角: 92°
垂直画角: 45°
AXIS F34/F44 に接続時 (720p):
水平画角: 56°
垂直画角: 29°

解像度 最大1920x1200/1080

ワイドダイナミックレンジ (WDR) WDR Forensic Capture
AXIS F41 に接続時: 1080p、25/30フレーム/秒 (50/60 Hz)
AXIS F44 に接続時: 720p、12.5/15フレーム/秒 (50/60 Hz)

最低照度 カラー: 0.3ルクス

シャッター速度
AXIS F34/F44 に接続時:
HDTV 720p 25/30フレーム/秒: 1/28000秒~2秒
1080p 12.5/15フレーム/秒: 1/22500秒~2秒
AXIS F41 に接続時:
HDTV 1080p 25/30/50/60フレーム/秒: 1/143000秒~2秒
WUXGA (1920x1200) 25/30フレーム/秒: 1/143000秒~2秒

フレームレート 最大50/60フレーム/秒 (50/60 Hz)

一般

ケーシング アルミニウム

動作条件 -30 ° C~55 ° C
湿度10~85% RH (結露不可)

保管条件 -40 °C~65 °C

認証・認可 ECE R10 rev.04、EN 50121-4、IEC/EN/UL 60950-1、IEC 60068-2-1、IEC 60068-2-2、IEC 60068-2-14、IEC 60068-2-30、IEC 60068-2-78、IEC 60529 IP4X、IEC 62236-4、EN 55022 Class B、EN 55024、EN 61000-3-2、EN 61000-3-3、EN 61000-6-1、EN 61000-6-2、FCC Part 15 Subpart B Class B、ICES-003 Class B、VCCI Class B、C-tick AS/NZS CISPR 22 Class B、KCC KN22 Class B、KN24、EN 50581、IEC 60068-2-6、IEC 60068-2-27

外形寸法 45 mm直径20 mm

重量 3 mケーブル: 78 g
12 mケーブル: 328 g

必要なハードウェア AXIS F34/F41/F44 Main Unit

付属品 インストールガイド
AXIS F8202 Straight Mounting Bracket

オプションアクセサリ
AXIS F8204 Mounting Band
AXIS F8212 Trim Ring
AXIS F8225 Pinhole Accessory
AXIS F9201 Black/Silver Height Strip Housing

保証 Axis 3年保証については、www.axis.com/warrantyを参照してください

AXIS F1035-E Sensor Unit

モデル AXIS F1035-E (ケーブル長3 m): 魚眼、IP66/IP67準拠
AXIS F1035-E (ケーブル長12 m): 魚眼、IP66/IP67準拠

カメラ

AXIS F41 Main Unit

仕様

| | |
|--------------------|--|
| 撮像素子 | 1/2.8" (有効) プログレッシブスキャンRGB CMOS |
| レンズ | 固定アイリス 1.3 mm、F2.8 AXIS F34/F41/F44 に接続時 (1080p): 水平画角: 194° 垂直画角: 113° AXIS F34/F44 に接続時 (720p): 水平画角: 112° 垂直画角: 66° |
| 解像度 | 最大1920x1200/1080 |
| ワイドダイナミックレンジ (WDR) | WDR Forensic Capture AXIS F41 に接続時: 1080p、25/30フレーム/秒 (50/60 Hz) AXIS F44 に接続時: 720p、12.5/15フレーム/秒 (50/60 Hz) |
| 最低照度 | カラー: 0.3ルクス |
| シャッター速度 | AXIS F34/F44 に接続時: HDTV 720p 25/30フレーム/秒: 1/28000秒~2秒 1080p 12.5/15フレーム/秒: 1/22500秒~2秒 AXIS F41 に接続時: HDTV 1080p 25/30/50/60フレーム/秒: 1/143000秒~2秒 WUXGA (1920×1200) 25/30フレーム/秒: 1/143000秒~2秒 |
| フレームレート | 最大50/60フレーム/秒 (50/60 Hz) |
| 一般 | |
| ケーシング | IP66、IP67準拠、アルミニウム |
| 動作条件 | -30 ° C~55 ° C 湿度10~100% RH (結露可) |
| 保管条件 | -40 ° C~65 ° C |
| 認証・認可 | ECE R10 rev.04、EN 50121-4、IEC/EN/UL 60950-1、IEC 60068-2-1、IEC 60068-2-2、IEC 60068-2-14、IEC 60068-2-30、IEC 60068-2-78、IEC 60529 IP4X、IEC 62236-4、EN 55022 Class B、EN 55024、EN 61000-3-2、EN 61000-3-3、EN 61000-6-1、EN 61000-6-2、FCC Part 15 Subpart B Class B、ICES-003 Class B、VCCI Class B、C-tick AS/NZS CISPR 22 Class B、KCC KN22 Class B、KN24、EN 50581、IEC 60068-2-60、IEC 60529 IP66/IP67、IEC 60721-3-5 5M3 (振動、衝撃)、IEC/EN/UL 60950-22、NEMA 250 Type 4X |
| 外形寸法 | 62 mm直径30 mm |
| 重量 | 3 mケーブル: 96 g 12 mケーブル: 346 g |
| 必要なハードウェア | AXIS F34/F41/F44 Main Unit |
| 付属品 | インストールガイド AXIS F8201 Vari-angle Mounting Bracket |
| オプションアクセサリ | AXIS F8203 Fixed Mount Bracket AXIS F8204 Mounting Band AXIS F8212 Trim Ring AXIS F8235 Fisheye Accessory |
| 保証 | Axis 3年保証については、 www.axis.com/warranty を参照してください |

AXIS F4005 Dome Sensor Unit

| | |
|------------|--|
| カメラ | |
| 撮像素子 | |
| レンズ | 2.8mm、F2.0 AXIS F34/F41/F44 に接続時、1080p 水平画角: 113° 垂直画角: 62° AXIS F34/F44 に接続時、720p 水平画角: 73° 垂直画角: 41° |
| 解像度 | 最大1920x1200/1080 |

AXIS F41 Main Unit

仕様

ワイドダイナミックレンジ (WDR) WDR - フォレンジックキャプチャー
AXIS F41に接続時: 1080p、25/30フレーム/秒 (50/60 Hz)
AXIS F44に接続時: 720p、12.5/15フレーム/秒 (50/60 Hz)

最低照度 カラー: 0.3ルクス

シャッター速度 **AXIS F41に接続時:**
HDTV 1080p 25/30/50/60フレーム/秒: 1/143000秒~2秒
WUXGA (1920×1200) 25/30フレーム/秒: 1/143000秒~2秒
AXIS F34/F44に接続時:
1080p 12.5/15フレーム/秒: 1/22500秒~2秒
HDTV 720p 25/30フレーム/秒: 1/28000秒~2秒

フレームレート 最大50/60フレーム/秒 (50/60 Hz)

アングル調整 チルト: 120°、回転: 90°

一般

ケーシング プラスチック

動作条件 -30° C ~ 55° C
湿度: 10~85% RH (結露不可)

保管条件 -40° C ~ 65° C

認証・認可 ECE R10 rev.04、EN 50121-4、IEC/EN/UL 60950-1、IEC 60068-2-1、IEC 60068-2-2、IEC 60068-2-14、IEC 60068-2-30、IEC 60068-2-60、IEC 60068-2-78、IEC 62236-4、EN 55022 Class B、EN 55024、EN 61000-3-2、EN 61000-3-3、EN 61000-6-1、EN 61000-6-2、FCC Part 15 Subpart B Class B、ICES-003 Class B、VCCI Class B、C-tick AS/NZS CISPR 22 Class B、KCC KN22 Class B、KN24、EN 50581、IEC 60068-2-60、IEC 60721-3-5 5M3 (振動、衝撃)

外形寸法 奥行: 38 mm
直径112 mm
12 mケーブル

重量 530 g

必要なハードウェア AXIS F34/F41/F44メインユニット

付属品 インストールガイド、回転ツール

保証 Axis 3年保証およびAxis延長保証オプション (www.axis.com/warrantyを参照)

AXIS F4005-E Dome Sensor Unit

カメラ

撮像素子

レンズ 2.8 mm、F2.0
AXIS F34/F41/F44に接続時、1080p
水平画角: 110°
垂直画角: 61°
AXIS F34/F44に接続時、720p
水平画角: 71°
垂直画角: 40°

解像度 最大1920x1200/1080

ワイドダイナミックレンジ (WDR) WDR - フォレンジックキャプチャー
AXIS F41に接続時: 1080p、25/30フレーム/秒 (50/60 Hz)
AXIS F44に接続時: 720p、12.5/15フレーム/秒 (50/60 Hz)

最低照度 カラー: 0.3ルクス

シャッター速度 **AXIS F41に接続時:**
HDTV 1080p 25/30/50/60フレーム/秒: 1/143000秒~2秒
WUXGA (1920×1200) 25/30フレーム/秒: 1/143000秒~2秒
AXIS F34/F44に接続時:
1080p 12.5/15フレーム/秒: 1/22500秒~2秒
HDTV 720p 25/30フレーム/秒: 1/28000秒~2秒

フレームレート 最大50/60フレーム/秒 (50/60 Hz)

アングル調整 チルト: 120°、回転: 90°

一般

AXIS F41 Main Unit

仕様

| | |
|-----------|---|
| ケーシング | IK09およびIP66準拠プラスチックケース |
| 動作条件 | -30 ° C~55 ° C 湿度: 10~100% RH (結露可) |
| 保管条件 | -40 ° C~65 ° C |
| 認証・認可 | ECE R10 rev.04、EN 50121-4、IEC/EN/UL 60950-1、IEC 60068-2-1、IEC 60068-2-2、IEC 60068-2-14、IEC 60068-2-30、IEC 60068-2-60、IEC 60068-2-78、IEC 62236-4、EN 55022 Class B、EN 55024、EN 61000-3-2、EN 61000-3-3、EN 61000-6-1、EN 61000-6-2、FCC Part 15 Subpart B Class B、ICES-003 Class B、VCCI Class B、C-tick AS/NZS CISPR 22 Class B、KCC KN22 Class B、KN24、EN 50581、IEC 60068-2-60、IEC 60529 IP66、IEC 60721-3-5 5M3 (振動、衝撃)、IEC 62262 IK09、IEC/EN/UL 60950-22 |
| 外形寸法 | 奥行: 38 mm 直径112 mm 12 mケーブル |
| 重量 | 590 g |
| 必要なハードウェア | AXIS F34/F41/F44メインユニット |
| 付属品 | インストールガイド、回転ツール |
| 保証 | Axis 3年保証およびAxis延長保証オプション (www.axis.com/warranty を参照) |

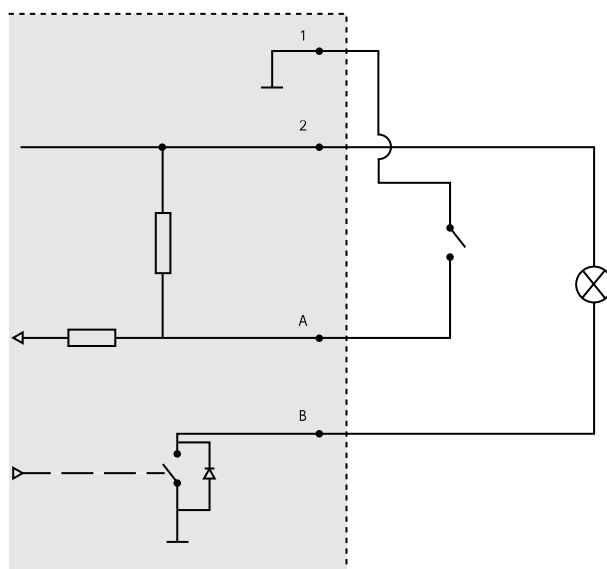
環境責任: axis.com/environmental-responsibility

コネクタ

| 機能 | ピン | 備考 | 仕様 |
|----------------|-----|--|--------------------------------|
| 0 V DC (-) | 1 | DCグラウンド | 0 V DC |
| DC出力 | 2 | 補助装置の電源供給に使用できます。 注: このピンは、電源出力としてのみ使用できません。 | 12 V DC 最大負荷 = 50 mA |
| 設定可能 (入力または出力) | 3-6 | デジタル入力 - 動作させるにはピン1に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。 | 0~30 V DC (最大) |
| | | デジタル出力 - 動作させるにはピン1に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) にします。誘導負荷 (例: リレー) とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するため、ダイオードを負荷と並列に接続する必要があります。 | 0~30 V DC (最大)、オープンドレイン、100 mA |

AXIS F41 Main Unit

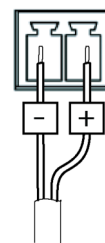
仕様



- 1 0VDC (-)
- 2 DC出力12V、最大50mA
- A I/O (入力として設定)
- B I/O (出力として設定)

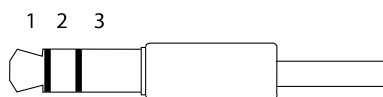
電源コネクタ

DC電源入力用2ピンターミナルブロック。定格出力が100W以下または5A以下の安全特別低電圧 (SELV) に準拠した有限電源 (LPS) を使用してください。



音声コネクタ

3.5 mm音声コネクタ (ステレオ)



| | 1 チップ | 2 リング | 3 スリーブ |
|------|--|--|--------|
| 音声入力 | マイクロフォン/ライン入力 バランス: 「ホット」信号 マイクロフォン/ライン入力 非バランス: マイクロフォン/ライン入力 | バランス: 「コールド」信号 マイクロフォン/ライン入力 非バランス: 未使用 | グラウンド |
| 音声出力 | ライン出力、モノラル (ステレオコネクタと互換) | ライン出力、モノラル (ステレオコネクタと互換) | グラウンド |

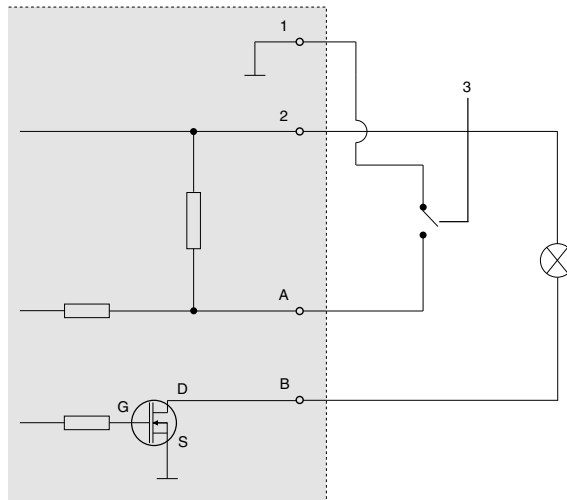
AXIS F41 Main Unit

仕様

デフォルトでは内蔵マイクロフォンが使用され、外部マイクロフォンが接続されると、外部マイクロフォンが使用されます。マイクロフォン入力にプラグを差し込むと、内蔵マイクロフォンが無効になります。

接続図

I/Oコネクタ



- 1 0VDC (-)
- 2 DC出力12V、最大50mA
- 3 例: プッシュボタン
- A I/O (入力として設定)
- B I/O (出力として設定)

パフォーマンスに関する一般的な検討事項

システムを設定する際には、さまざまな設定や条件がシステムのパフォーマンスにどのように影響するかを検討することが重要です。ある要因は必要な帯域幅の量 (ビットレート) に影響し、他の要因はフレームレートに影響し、帯域幅とフレームレートの両方に影響する事柄もあります。CPUの負荷が最大に達した場合も、フレームレートに影響を及ぼします。

最も重要な検討事項には次のようなものがあります。

- 画像解像度が高い、または圧縮レベルが低いと、画像のファイルサイズが増大し、結果的に帯域幅に影響を及ぼします。
- レンズを手動で回転させると、GUIから画像を回転させるときより高いパフォーマンスが得られます。
- Motion JPEGまたはユニキャストH.264を使用するクライアントのアクセス数が多すぎると帯域幅に影響を及ぼします。
- 様々なクライアントが様々な解像度や圧縮方式が異なるストリームを同時に閲覧すると、フレームレートと帯域幅の両方に影響を及ぼします。
フレームレートを高く維持するために、できる限り同一ストリームを使用してください。ストリームプロファイルを使用すると、ストリームを同一に揃えることができます。
- Motion JPEGおよびH.264のビデオストリームに同時にアクセスすると、フレームレートと帯域幅の両方に影響を及ぼします。
- イベント設定を多用すると、製品のCPU負荷に影響が生じ、その結果、フレームレートに影響します。

AXIS F41 Main Unit

仕様

- 特に、Motion JPEGのストリーミングでは、HTTPSを使用するとフレームレートが低くなる場合があります。
- インフラストラクチャーが貧弱なネットワークの使用率が高いと帯域幅に影響します。
- パフォーマンスの低いクライアントコンピューターで閲覧すると感知するパフォーマンスが低くなり、フレームレートに影響します。
- 複数のAXIS Camera Application Platform (ACAP) アプリケーションを同時に実行すると、フレームレートと全般的なパフォーマンスに影響する場合があります。

